



広報あづみの
安曇野市制施行10周年記念号

平成 27 年 10 月

AZUMINO 10

AZUMINO City 10th ANNIVERSARY 2015

こんなに大きくなりました、10歳



リンゴの花



蓼川と水車



常念岳と桜・道祖神



あやめ公園



犀川ダム湖に飛来した白鳥

堀金上空から穂高柏原、牧方面をのぞむ



安曇野市長 宮澤 宗弘

市制施行 10 周年を機に さらなる飛躍を

安曇野市は本年、発足から 10 年の節目の年を迎えました。豊かな自然に恵まれ、固有の風土により育まれた特色ある伝統・文化を先人から受け継ぎ、活力ある地域産業に支えられながら着実に一步ずつ発展してきました。

1 月には、市のシンボルとなる新庁舎が、市民の皆さまのご理解とご協力により完成しました。庁舎を拠点に、新たな安曇野市の創生に向けて産業振興による雇用の創出など地域を元気にする「活力あふれるまちづくり」、「健康長寿のまちづくり」、「豊かな人を育むまちづくり」、「環境を守り、安全・安心なまちづくり」、「協働によるまちづくり」などに積極的に取り組んでまいります。また、市制施行 10 周年を記念して、市民の皆さまとの協働事業のほか、市歌の制定や安曇野ハーフマラソン、全国名水サミット、記念式典など多彩な催しを開催し、5 地域の一体感の醸成を図ってまいりました。

市では、これまでの歩みを礎にさらなる飛躍を目指してまいります。安曇野市が一層活気にあふれ、魅力ある地域として成長・発展できるよう市政運営に努めてまいりますので、市民の皆さまをはじめ、関係する皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS

- 表紙「こんなに大きくなりました、10歳」
豊科北小学校4年生
藤原 温さん(平成17年10月生まれ)
久保田愛美さん(平成17年5月生まれ)
- 目次・市長あいさつ 2 ～ 3
- 安曇野四季の詠 4 ～ 7
- 市の歩み(安曇野アルバムほか) 8 ～ 21
- 10 周年記念事業レポート 22 ～ 27
- 市長と新成人が語るこれからの安曇野... 28 ～ 31
- 資料(第 1 次安曇野市総合計画ほか) ... 32 ～ 37
- 安曇野市へのメッセージ 38 ～ 39
- 裏表紙

安曇野に生きる

山々を源にする幾筋もの清流は、旅の最中^{さなか}で再び出会い、大きな流れとなって大地を潤す。

平成17年10月、豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町が合併。5つの心も一つに集う。

高空に凜と聳^{そび}える北アルプス、平にきらめく堰や木々、小径^{こみち}でつつましく微笑む道祖神。

先人の知恵と努力により、特色ある伝統文化^{はぐく}が育まれたこの地。活気に満ちた人々の営みが四季折々にまちを彩る。

かつて、川端康成、井上靖、東山魁夷は長峰山に集い、「残したい美しさ静けさ」と安曇野を評したと言う。長峰山頂―。

眼下に、一幅の絵画のような光景が広がる。

静寂の中、川の流れのようにゆっくりと時が刻まれていく。

安曇野市制施行10周年

長峰山

▲
市の東に位置する長峰山からは、北アルプスと市内の風景を一望できる。山頂には木造の休憩展望台が設置され、刻々と変化する眺望を楽しむことができる。

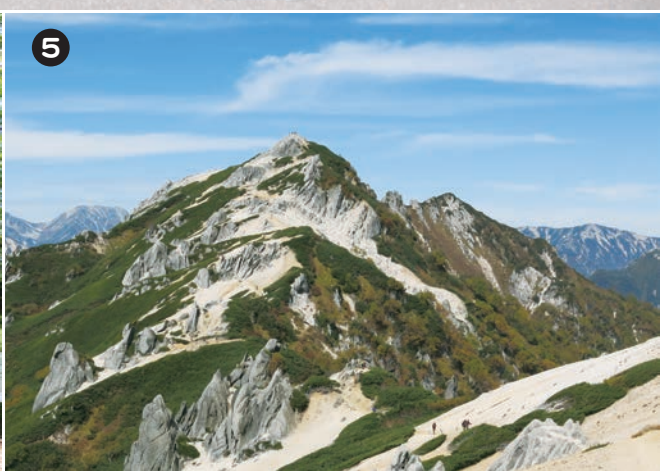
秋

揺れる稲穂、色づく木々、収穫の喜びを分かち合う
 ①特産の林檎 ②礫山美術館 ③穂高神社御船祭 ④ソバの花
 ⑤旧国鉄篠ノ井線廃線敷 ⑥はぜ掛け



冬

子どもたちの頬赤く、無病息災の炎は繭玉を焦がす
 ①カジカ漁 ②毎冬飛来する白鳥 ③犀川河川敷の霧氷
 ④三九郎 ⑤雪化粧 ⑥恒例のお菜洗い



春

アルプスの残雪美しく、早春賦の歌声響き渡る
 ①早春賦まつり ②市花、ワサビ ③桜の名所、光城山
 ④水鏡 ⑤ワサビの花の収穫 ⑥道祖神

夏

野辺に清水きらめき、祭りの熱気がまちを包む
 ①YOSAKOI安曇野 ②幽玄の美、薪能 ③ひまわり畑と大糸線
 ④須砂渡・烏川渓谷 ⑤燕岳 ⑥安曇野花火

年表で綴る・・・安曇野市誕生まで

原始～古代

小さな河川沿いに集落を形成

市内では、現在約 400 カ所の遺跡が確認されており、集落形成の過程をうかがい知ることができます。縄文時代には、山麓の小さな河川沿いに集落ができ始め、中期にはその規模が大きくなりました。弥生時代には、米作りが本格的に始まり、古墳時代には北アルプス山麓や犀川の段丘上に古墳群が形成されました。

安曇野を開いたといわれる安曇族は、北九州に起こり、その後豊かな土地を求め、いつしかこの地に移住したと伝えられています。彼らは北九州や朝鮮半島を本拠地とする海人（あま）族と言われており、朝鮮半島や中国を行き来し、紀元 6 世紀ごろに安曇野へ移住、船によって大陸の文化も運んできたと考えられています。

大和朝廷での海人族は、海部（あまべ）などと呼ばれて海岸の業務を取り締まる任務を果たし、また、朝廷に海産物を献納していました。

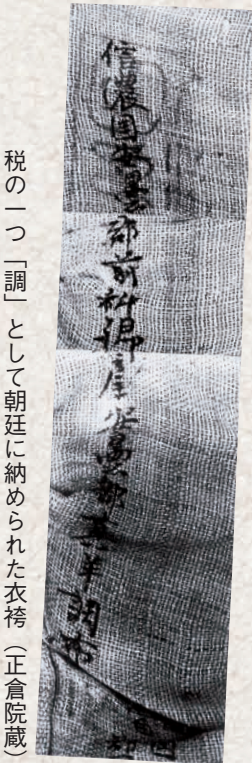
穂高神社の若宮には阿曇比羅夫（あづみのひらふ）という人物が祀られています。663 年、大和朝廷が唐・新羅（しらぎ）の連合軍と戦った際、阿曇比羅夫が大將として朝鮮半島に渡り、戦ったとされています。

古代～近世

安曇郡には高家郷・八原郷・前科郷・村上郷の 4 郷

奈良・平安時代になると現在の集落とはほぼ同じ場所に集落が形成されます。平安時代に編纂された『和名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）』によれば、当時は、安曇郡は高家郷・八原郷・前科（さきしな）郷・村上郷の 4 郷があったといえます。奈良県の正倉院には、天平宝字 8 年（764）に信濃国安曇郡前科郷（明科七貴～池田町あたりか）から調（特産品）として納められた、麻布製の衣袴（えこ）が保存されています。当時麻がこのあたりの特産品であったことが分かります。

平安後期から鎌倉時代にかけて、全国的に未開発地や荒廃田の開発が進みました。地方の豪族たちの中には、税の厳しいとりたてを免れるため、自らが開発した土地を貴族や寺社などに寄進して庄園とする者もあらわれました。安曇野でも、矢原庄や住吉庄などの庄園がみられます。また年貢をお金で納めるために、農作物をお金に換える市場も開かれました。



税の一つ「調」として朝廷に納められた衣袴（正倉院蔵）



原始、古代、中世、近世

時代	西暦	出来事
南北朝・室町	1333 年	建武の新政
	1400 年	大塔合戦で仁科氏ら大文字一揆が小笠原氏を破る
	1552 年	武田氏が小岩嶽城を攻め落とす
	この頃、安曇・筑摩両郡が武田氏の統治となる	
安土桃山	1567 年	安曇・筑摩両郡の武士たちが生島足島神社で武田信玄に忠誠を誓う
	1582 年	武田氏が織田軍に攻められ滅亡する 安曇・筑摩両郡が木曾氏に統治される 本能寺の変 安曇・筑摩両郡が松本城主小笠原氏に統治される
	1600 年	関ヶ原の戦い
江戸	1603 年	徳川家康が征夷大將軍に任じられる（江戸幕府の成立）
	1654 年	臼井弥三郎が中心となり、矢原堰を開削する
	1686 年	貞享騒動が起き、多田加助ら首謀者 28 名が処刑される
	1725 年	戸田氏が松本城主となり、川手の村々（当時は麻績組）は幕府領となる
	この頃、安曇地方に多くの道祖神が造られ始める	
	1814 年	十返舎一九が成相新田町村や満願寺を訪ねる
	1816 年	等々力孫一郎、中島輪兵衛、平倉六郎右衛門らが拾ヶ堰の開削工事を完成させる
	1832 年	犀川通船開始
	1847 年	善光寺地震 市内一部地域で山崩れ
	1853 年	ペリー率いるアメリカ東インド艦隊が浦賀に来航する
	1867 年	大政奉還
	1868 年	戊辰戦争 江戸幕府が新政府軍に降伏する

南北朝・室町時代には小笠原氏や仁科氏などの勢力下に置かれ、その後甲斐の戦国大名・武田氏の領国となります。江戸時代の幕藩体制下では、松本城主の支配となりました。

安曇野は必ずしも豊かな土地ではなく、扇状地で土壌が砂礫質のため、農業用水の確保が困難でしたが、承応 3 年（1654）にできた矢原堰、貞享 2 年（1685）にできた勘左衛門堰、文化 13 年（1816）にできた拾ヶ堰などが水田開発に道を開きました。

貞享義民騒動

水野氏が松本城主であった貞享 3 年（1686）全国的にも有名な農民一揆、「貞享騒動」が起きました。その中心的リーダーが、多田加助です。加助たちは神社の拝殿で密議の上、「5 カ条の訴状」を捧げ、年貢軽減などを松本藩の郡奉行に願い出ます。このことを知った松本平の 1 万人もの農民が、城下に押し寄せる騒ぎになりました。願いはいったん聞き入れられたものの、1 カ月後にはなかったものとされ、この騒動を指揮した罪で加助とその同志らははりつけや、打ち首の刑に処されたのです。

拾ヶ堰の偉業

拾ヶ堰の全長は約 15 キロメートル。奈良井川の水を取水し、梓川を横掘。安曇野の水田約 1,000 ㍎を潤し烏川に流れ込んでいます。かんがい地域が旧 10 カ村に及ぶことからこの名が付けられました。工事は延べ 67,000 人余を投入し、わずか 3 カ月間で完成。26 年に及ぶ構想、先人たちの深い知恵と高い技術、目標を掲げて協力し合う尊さなど将来まで語り伝えたい安曇野の歴史の偉業です。



江戸時代の松本藩絵図（松本市立博物館蔵）○印辺りが安曇野市

◆年表（参考文献：『安曇野の郷科書』）※青文字は安曇野市の出来事

時代	西暦	出来事
縄文	前 13,000 年頃	定住生活、土器や弓矢の使用開始
	前 5,000 年頃	安曇野に集落が出現（ほうろく屋敷遺跡ほか）
	前 2,500 年頃	明科光の北村遺跡（昭和 62 年 <1987> に約 300 体の縄文人骨発見）
弥生	前 9 ～ 8 世紀	西日本で水田農耕の開始
	紀元前後	安曇野で農耕集落の成立（黒沢川右岸遺跡、みどりヶ丘遺跡）
	57 年	後漢光武帝が「漢委奴国王」金印を奴国王に与える
古墳	3 世紀頃	卑弥呼の時代
	6 世紀頃	西日本を中心に前方後円墳などの古墳造営が開始される
		仏教伝来 北アルプス山麓や明科潮地区で多くの古墳が造られ始める（副葬品は土器、馬具、玉類、直刀など）
飛鳥・奈良	645 年	大化の改新
	この頃、明科地域に瓦葺の寺院（明科廃寺）が建立される	
	710 年	平城京を都とする この頃、安曇郡ができ、後の『和名類聚抄』に高家、八原、前科、村上の 4 郷の名前がみえる
平安	794 年	平安京を都とする
	征夷大將軍坂上田村麻呂が蝦夷討伐に赴く	
	「延喜式神名帳」に穂高神社の名前が載せられる	
鎌倉	927 年	平氏が滅亡する
	1185 年	源頼朝が諸国に守護・地頭を設置する
	1192 年	源頼朝が征夷大將軍に任じられる
	1317 年	明科地域の光久寺の木造日光・月光菩薩立像が造られる



東小倉遺跡（縄文時代中期）



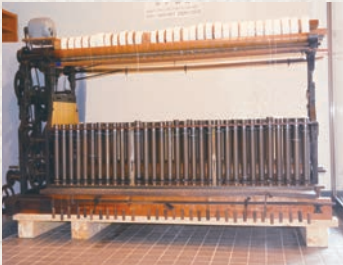
穂高古墳群（6 世紀後半から 7 世紀）



明科廃寺跡（7 世紀後半創建）から出土した瓦

近代、現代、安曇野市誕生まで

時代	西暦	出来事
明治	1869年	版籍奉還 この頃、廃仏毀釈により安曇地方の多くの寺院が荒廃する
	1871年	廃藩置県 安曇・筑摩両郡は松本県（のちの筑摩県）に属する 藤森桂谷が実践社を開設
	1873年	地租改正 臥雲辰致が太糸紡織機（ガラ紡）を発明
	1876年	筑摩県を廃し、長野県へ併合する
	1879年	南安曇郡役所を豊科に置く
	1880年	松沢求策らが奨匡社を創立
	1889年	大日本帝国憲法発布
	1894年	日清戦争開戦
	1898年	井口喜源治が研成義塾を開設
	1902年	篠ノ井線全線開通
	1904年	日露戦争開戦
	1910年	荻原碌山（守衛）が彫刻「女」を制作 宮下太吉らが爆発物取締罰則違反で逮捕される（大逆事件のきっかけ）
大正	1914年	第1次世界大戦開戦
	1916年	信濃鉄道全線開通（現 大糸線・信濃大町駅まで）
	1923年	関東大震災
昭和	1937年	飯沼正明が純国産機・神風号で東京ーロンドン間の飛行に成功 日中戦争開戦
	1939年	第2次世界大戦開戦
	1941年	太平洋戦争開戦
	1942年	清沢冽が『暗黒日記』を書き始める
	1945年	有明村（現 穂高有明）、穂高町がB29による空襲を受ける
	1945年	太平洋戦争終結
	1953～1961年	昭和の大合併
	1954～1957年	旧5町村（豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町）が誕生
	1966年	松本空港開港
	1969年	TBS「ポーラテレビ小説」で、新宿中村屋を創業した相馬愛蔵（穂高白金生まれ）とその妻・相馬黒光の半生を描いたドラマ「パンとあこがれ」が放映される
	1970年	井上靖、川端康成、東山魁夷が安曇野来訪 県営ほ場整備事業開始
	1971年	豊科町が区域区分（線引き）を導入
	1975年	NHKの朝の連続テレビ小説で、安曇野を舞台にした作品「水色の時」が放映される 若い女性向けファッション雑誌an・an、non・noなどで「安曇野」が紹介され、多くの人々が訪れるようになる
	1978年	やまびこ国体開催（主会場：松本市）
平成	1981年	安曇広域農道全線開通
	1988年	長野自動車道豊科IC開通
	1993年	長野自動車道全線開通
	1998年	長野冬季オリンピック開催
平成	1999～2010年	平成の大合併
	2002年	県営烏川溪谷緑地（水辺エリア）開園
	2004年	国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区開園
	2005年	安曇野市が誕生



明治6年（1873）
臥雲辰致がガラ紡を発明



明治35年（1902）篠ノ井線が開通（白坂トンネル貫通祝記念）



大正15年（1926）造成中の深沢大王ワサビ田 出典：『目で見る明科史』



昭和45年（1970）井上靖、川端康成、東山魁夷が安曇野来訪



昭和63年（1988）長野自動車道豊科インターチェンジ開通



平成16年（2004）
安曇野地域合併協議会発足

年表で綴る・・・安曇野市誕生まで



交通の発達 篠ノ井線・大糸線が開通

山岳地帯で、川が急峻な長野県では、陸上輸送が主でした。商品流通が格段に増え始めた江戸時代中ごろからは、犀川通船や拾ヶ堰通船など大きな川や堰を利用した河川輸送が行われました。この交通輸送手段が劇的に変化するののは、鉄道の開通以後です。明治35年（1902）には国鉄篠ノ井線が、大正5年（1916）には信濃鉄道（現在の太糸線）が全線開通しました。道路は、昭和13年（1938）に国道19号（犀川線）が全線開通、昭和28年（1953）には国道147号が二級国道に指定されました。

産業の発展（天蚕、ワサビ、ニジマスなど）

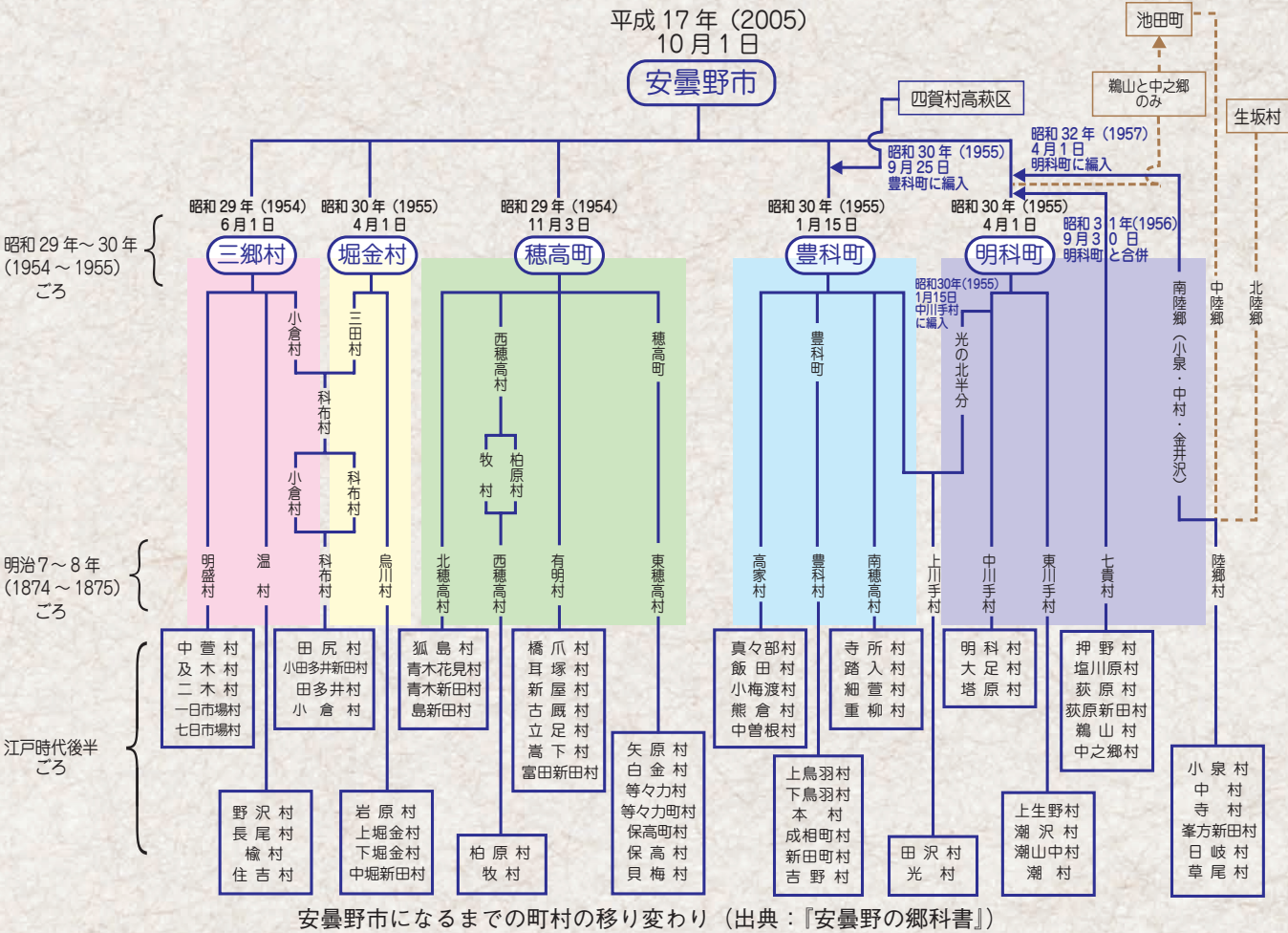
交通の発達などにより、大正から昭和にかけては、米の生産のほかに好調な生糸の輸出により各地で天蚕業・製糸業が栄えました。やがて養蚕は衰退しますが、三郷地域では昭和30年ごろからリンゴ畑へと転換していきます。また、特産品のワサビ栽培は、明治の中ごろに始まりました。さらにワサビ田で利用する豊かな湧き水を活用して、大正から昭和の初めにかけてニジマス養殖が始まります。昭和30年代・40年代には農業基盤が整ったほか、工場誘致も盛んに行われ、現在の産業発展の礎が築かれたのです。

昭和の大合併

明治維新以後、廃藩置県により郡県制が始まりました。この地域は明治4年（1971）に松本県の所管に入り、ついで周辺の県と合併して筑摩県となりました。長野県に編入されたのは明治9年のことです。豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の旧5町村の誕生は、昭和28年（1953）から昭和36年（1961）にかけて国主導で進めたいわゆる「昭和の大合併」によるものでした。合併に至るまでには町村ごとにさまざまな経緯があり、分村して別々の町になった村もありました。

安曇野市誕生まで（概要）

- 平成16年7月23日 5町村安曇野地域合併協議会設置協議書調印式を開催
- 同年12月14日 新市名称が「安曇野市」に決定
- 平成17年2月23日 合併協定調印式を開催
- 同年7月11日 長野県議会において廃置分合の議案議決
- 同年7月12日 5町村の廃置分合について県知事決定
- 同年8月12日 総務大臣による官報告示により「安曇野市」誕生が正式に決定
- 同年9月30日 安曇野地域合併協議会解散 安曇野市誕生カウントダウンイベント開催





初代市長 平林伊三郎氏が初登庁

平成17年・18年 2005・2006

安曇野市が誕生、市役所開庁

安曇野市誕生前夜、住民有志で構成する実行委員会が安曇野市誕生カウントダウンイベントを豊科スイス村サンモリッツで開催。翌日には市主催のオープニングセレモニー、職員への辞令交付式、選挙管理委員会、教育委員会など各行政委員会が開催されました。このほか市消防団発足式も行われました。

平成 17 年

- 9 月 30 日 安曇野市誕生カウントダウンイベント
- 10 月 1 日 安曇野市発足
 - 23 日 市長・市議会議員一般選挙で初代市長に平林伊三郎氏が当選
- 11 月 7 日 安曇野市議会がスタート
- 12 月 26 日 堀金小学校が完成

平成 18 年

- 1 月 6 日 第 1 期地域審議会委員を委嘱
- 31 日 穂高西部児童館が完成
豊科南小学校大規模改造工事が完了
- 2 月 26 日 合併記念式典を豊科公民館ホールで開催
- 3 月 15 日 明南小学校・明科中学校共用プールが完成
- 6 月 11 日 合併記念「NHK のど自慢」を穂高会館で公開生放送
- 7 月 1 日 埼玉県三郷市・奈良県三郷町と友好都市提携を再締結
- 19 日 梅雨前線の影響で記録的豪雨。明科地域の小泉・荻原・木戸地区に避難勧告
- 9 月 30 日 神奈川県真鶴町と友好都市提携を再締結
- 10 月 4 日 信州大学人文学部との連携協定再締結
- 7 日 第 1 回安曇野フェスタを安曇野スイス村サンモリッツで開催



この年日本では（平成 18 年）
・平成の大合併、全国の市町村が 1,820 に
・トリノ五輪フィギュア荒川静香が金メダル獲得
・流行語◎イナバウアー / 格差社会



安曇野市誕生カウントダウンイベントを開催



オープニングセレモニーで市章をデザインした古川賢一郎さんを表彰



本庁舎開庁セレモニー



安曇野市議会スタート



堀金小学校が完成



豊科南小学校大規模改造工事が完了



穂高西部児童館が完成



安曇野市合併記念式典を豊科公民館ホールで開催



明南小学校・明科中学校共用プールが完成



第 1 回安曇野フェスタ開催



国道 147 号高家バイパス開通



渡り初め



観光協会発足記念式典を開催



市夜間急病センターがオープン



市区長会が発足



「全国みどりの愛護のつどい」皇太子ご夫妻来訪



南部学校給食センターが完成



中部学校給食センターが完成



デマンド交通あづみんが試験運行開始



市内全域の新成人式を初開催

平成19年

2007

アルプス大橋完成で国道 147 号高家バイパス全通

あづみ野産業団地東にアルプス大橋が完成し、全長 4.2 キロの「国道 147 号高家バイパス」が全線開通しました。7 月 25 日には、開通式を祝う式典と渡り初めが行われ、安曇野市、松本市の両市民など 500 人以上が参加しました。

- 1 月 8 日 成人式を市全体で初開催
- 2 月 1 日 松本広域森林組合が発足
- 5 日 東京都武蔵野市と友好都市提携を再締結
- 3 月 6 日 旧 5 町村の観光協会が合併調印。3 月 28 日に発足記念式典。6 月 1 日から正式発足
- 8 日 黒沢洞合自然公園が完成
- 4 月 1 日 市商工会発足。旧 5 町村の商工会が合併
- 11 日 市夜間急病センターがオープン
- 19 日 名誉市民・高橋節郎さん逝去
- 5 月 21 日 市内で三郷サミットを開催
- 23 日 市区長会が発足
- 23 日 名誉市民・熊井啓さん逝去
- 6 月 2 日 第 18 回全国みどりの愛護のつどいが国営アルプスあづみの公園で開催。皇太子ご夫妻来訪
- 7 月 25 日 国道 147 号高家バイパスが開通
- 25 日 中部・南部両学校給食センターが完成
- 8 月 4 日 東京都江戸川区と友好都市提携を再締結
- 9 日 安曇野ブランドデザイン会議が発足
- 14 日 安曇野花火大会を明科御宝田遊水池で初開催
- 9 月 10 日 デマンド交通あづみんが試験運行開始
- 11 月 4 日 クラムザッハ町と姉妹都市提携を調印
- 20 日 地方自治法施行 60 周年記念式典で市が自治功労者表彰受賞
- 12 月 5 日 市功労者表彰式初開催



この年日本では
・年金記録漏れ判明
・能登半島沖、新潟中越沖と地震が相次ぐ
・流行語◎そんなのかんけいねえ / ハニカミ王子



三郷児童館が開館

平成20年

2008

土地利用規制を自主条例で統一する方針決定

都市計画に関する土地利用市民検討委員会は3月18日、市の統一した土地利用管理の方向性について、市長へ提言書を提出しました。それぞれ異なる3つの土地利用の管理手法の統一に向けた方針が決定されました。

- 2月28日 旬の味ほりがね物産センター組合が農林水産大臣賞を受賞
- 3月18日 市の統一した土地利用管理の方向性について提言書提出
- 26日 穂高交流学习センターが起工
- 27日 穂高有明の上水道施設が完成
- 4月17日 三郷児童館が完成
- 17日 本庁舎等建設検討委員会が「本庁舎等建設についての提言書」提出
- 22日 礫山美術館が開館50周年
- 7月～ 安曇野ふるさと寄附開始、「水」「食」「交流」3つのプロジェクトで活用
- 8日 「安曇野にふさわしい理想の夫婦」に映画監督・篠田正浩さん、女優・岩下志麻さん夫妻を委嘱
- 23日 堀金保育園が完成
- 10月6日 本庁舎等建設審議会が本庁舎等の建設に関する事項を諮問
- 7日 旧穂高保健センターを活用し「市民活動センターくるりん広場」がオープン
- 12月17日 あづみん利用者が10万人突破



この年日本では
・東海北陸道全線開通
・後期高齢者医療制度スタート
・流行語◎アラフォー／グ〜！

礫山美術館が開館50周年



mini コラム COLUMN

日本近代彫刻の祖・荻原礫山（本名・守衛）を顕彰する礫山美術館。礫山の遺作は、明治43年の没後、新宿中村屋の離れの建物や郷里の穂高・矢原の別棟で守り続けられました。時を経て昭和33年、礫山を慕う多くの人々の純粋な心と情熱が結実し、美術館が建設されました。全国、海外約30万人から寄せられた寄附金は、837万円となりました。



旬の味ほりがね物産センター組合が農林水産大臣賞受賞



統一した土地利用管理の方向性について提言書提出



穂高有明の上水道施設が完成



市民活動センターくるりん広場が開館



安曇野の理想の夫婦に篠田、岩下夫妻



穂高交流学习センター「みらい」が開館



旧国鉄篠ノ井線漆久保トンネル散策路が開通



穂高神社大遷宮祭



乗り合いタクシーあづみんが国土交通省大臣表彰を受賞



有明の森保育園開園



有明あおぞら保育園開園



宮澤宗弘氏が初登庁



姉妹都市オーストリア・クラムザッハ町へ市として初公式訪問

平成21年

2009

穂高神社で20年に一度の大遷宮祭

5月2日から17日を中心に穂高神社で行われた「大遷宮祭」。500年以上前から行われているこの祭りをひと目見ようと、市内外から約56万人が訪れました。また、穂高交流学习センター「みらい」が開館し、生涯学習の拠点が整備されました。

- 2月26日～本庁舎等建設検討市民説明会を開催
- 3月13日～土地利用に関する地区別懇談会開催
- 4月8日 旧国鉄篠ノ井線漆久保トンネルが散策路として再び開通
- 30日 新型インフルエンザ対策本部設置
- 5月2日～穂高神社大遷宮祭開かれる
- 27日 広報あづみののが全国広報コンクール（市部門）で第1席入選
- 18日 本庁舎等建設審議会が本庁舎等建設基本構想を答申
- 20日 有明あおぞら保育園が完成
- 6月25日～姉妹都市オーストリア・クラムザッハ町へ、市として初の公式訪問
- 7月8日 乗り合いタクシーあづみんが国土交通省大臣表彰を受賞
- 18日 「安曇野市プレミアム商品券」を販売
- 25日 あづみ野祭りが30周年、3,200人が参加
- 30日 明科社会就労センターが完成
- 8月2日 市消防団音楽喇叭隊が県大会第5位
- 9月12日 穂高交流学习センター「みらい」が完成
- 28日 有明の森保育園が完成
- 10月11日 市長・市議会議員一般選挙で第2代市長に宮澤宗弘氏が当選
- 11月19日～本庁舎建設検討の経過を5地域で説明
- 25日 最終処分場検討委員会候補地を選定



この年日本では
・新型インフルエンザ流行
・裁判員制度スタート
・高速道「上限1000円」スタート
・流行語◎こども店長／草食男子



長野自動車道梓川スマート IC 開通



県総合防災訓練が市内で開催

平成22年

2010

長野自動車道梓川スマート IC 開通

中信地区初となる ETC（自動料金収受システム）専用の「スマートインターチェンジ」が11月27日、長野自動車道梓川サービスエリアに開通しました。開通式には、約70人の関係者が出席。テープカットやくす玉で、地域の新たな玄関口の完成を祝いました。

- 1月 4日 新年祝賀会を初開催
- 8日 安曇野高橋節郎記念美術館の来館者が10万人達成
- 3月 8日 明科北保育園が完成
- 4月 1日 旧国鉄篠ノ井線三五山トンネルが散策路として再び開通
- 22日 荻原碌山が没後100年。碌山忌が碌山美術館で営まれる
- 5月28日 市役所本庁舎の最終候補地を発表
- 6月27日 第1回安曇野市民スポーツ祭を開催
- 7月10日 明南小学校で、開校50周年記念式典を開催
- 26日 地下水にかかわる研究委員会が発足
- 27日 福岡市東区との青少年交流が20周年
- 8月 1日 市消防団第6分団（明科）が小型ポンプ操法の部で県大会第3位
- 9月26日 県総合防災訓練が市内を会場に開催。98団体3,700人が参加
- 10月 1日 豊科総合支所内に「安曇野市水道料金センター」開設
- 1日～信州デスティネーションキャンペーンが県内一斉に始まる。これに合わせて穂高駅、豊科駅、有明駅が改修される
- 11月 6日 明北小学校で、開校50周年記念式典を開催
- 27日 長野自動車道梓川スマート IC 開通



この年日本では
・子ども手当支給開始
・113年間で最も暑い夏、気象庁発表
・流行語◎げげのー



荻原碌山が没後100年、碌山忌が営まれる



明科北保育園が完成



第1回安曇野市民スポーツ祭



福岡市東区との青少年交流が20周年



明南・明北小学校開校50周年



水道料金センター開設



安曇野赤十字病院の改築事業が完了



堀金児童館が開館



豊科交流学习センター「きぼう」使用開始



岩手県遠野市へ救援物資を送る



平和のつどい・戦没者追悼式



NHK連続テレビ小説「おひさま」が放映（主演の井上真央さん）

平成23年

2011

安曇野がNHK朝の連続テレビ小説「おひさま」の舞台に

戦争をはさんだ昭和という激動の時代、人々をおひさまのように明るい希望で照らす女性の姿を描いた「おひさま」。安曇野・松本が舞台となりました。この影響で安曇野を訪れる観光客が大幅に増加しました。また、安曇野赤十字病院の改築事業が完了し、医療施設の充実が図られました。

- 1月27日 豊科南部保育園新園舎が完成
- 13日～5地域に「移動市長室」を初開設
- 2月11日 豊科交流学习センター「きぼう」が使用開始
- 15日 三郷トマト栽培施設の指定管理者決定
- 3月 8日 安曇野赤十字病院の改築事業が完了。市内唯一の公的医療機関への建設支援
- 14日 東日本大震災被災地へ救援物資輸送。岩手県遠野市へ送る
- 4月～ 安曇野市の適正な土地利用に関する条例が施行
- 4日 NHK連続テレビ小説「おひさま」放映開始
- 14日 堀金児童館が開館。旧堀金保育園舎を活用
- 6月30日 市役所本庁舎基本設計業者を決定
- 7月～ 福祉バス市内全域で運行開始
- 6日 武蔵野サミットを市内で開催。10市町村で災害相互支援を宣言
- 25日 新本庁舎の住所が「豊科6000番地」に
- 8月 6日 地下水シンポジウムを堀金で開催
- 7日 集中豪雨により三郷地域の水道水に濁り発生
- 9月24日～全国安曇族サミットを市内で開催
- 10月 1日 住ま居る（スマイル）応援制度が始まる
- 1日 デジタル移動系防災行政無線が開局
- 28日 豊科東小学校で開校30周年記念式典を開催
- 11月26日 平和のつどい・戦没者追悼式を穂高交流学习センター「みらい」で初開催



この年日本では
・東日本大震災
・日本女子サッカー、ワールドカップで優勝
・流行語◎なでしこジャパン



北部学校給食センターが完成

平成24年

2012

豊科インターチェンジから 安曇野インターチェンジに名称変更

昭和 63 年の開設以降、安曇野および大北地域への玄関口として、利用されてきた長野自動車道豊科インターチェンジが10月7日、安曇野インターチェンジに名称変更されました。安曇野の知名度向上と地域経済の振興が図られました。

- 1月 新本庁舎の基本設計まとまる
- 2月 20日 北部学校給食センターが完成
- 3月 10日～新本庁舎基本設計の市民説明会開催
- 22日～公式訪問団がクラムザッハ町を訪問
- 4月 1日 観光情報センターがオープン
- 3日 子ども発達支援相談室を開所
- 20日 田淵行男さんの昆虫細密画が寄贈される
- 28日 ほりでーゆ～四季の郷の大規模改修工事が完了。営業再開
- 6月 27日 松本山雅 FC へ資本参加、ホームタウンに
- 8月 24日 市地下水資源強化・活用指針を報告
- 9月 5日～ロンドン・2012パラリンピックに樋口さんが出場
- 27日 川端康成の書などが寄贈される
- 10月 1日 屋外広告物条例制定
- 7日 豊科インターチェンジから安曇野インターチェンジに名称変更
- 12月 19日 「安曇野市平和都市宣言」を制定
- 20日 豊科地域の「線引き制度」が廃止。土地利用制度が統一される
- 25日 明科支所・公民館が一部完成、使用開始
教育委員会は旧明科公民館へ移転



この年日本では
・東京スカイツリー開業
・新東名高速、御殿場一三ヶ日間開通
・流行語◎ワイルドだろ



安曇野インターチェンジに名称変更



公式訪問団がクラムザッハ町を訪問



観光情報センターがオープン



ほりでーゆ～四季の郷の大規模改修工事が完了



松本山雅 FC ホームタウンに



昭和 45 年来訪時の川端康成の書が寄贈される

mini コラム

COLUMN

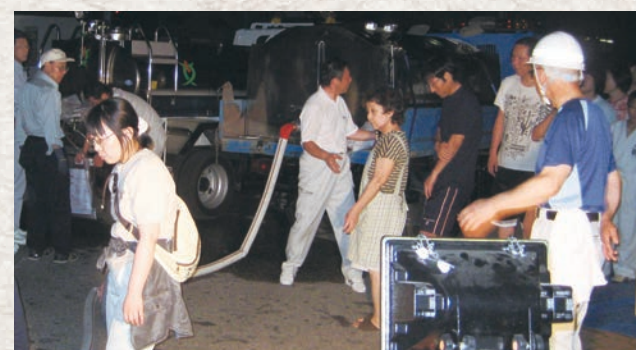
昭和 45 年 5 月中旬、日本を代表する小説家である川端康成、井上靖、日本画家の東山魁夷の 3 氏が安曇野を訪れ、風光明媚な眺めを堪能されました。一行が真っ先に向かったのは長峰山頂。このときの情景を井上氏は「梓川と高瀬川の合流点は美しい。高瀬川が大きいカーブを描いて梓川の横っばらに流れ込む、その流れ込み方がいい。槍ヶ岳の東面と北面に発する二つの川が、それぞれ大きくく回して邂逅（かいこう）する邂逅点は、まさにこのようなものでなければならぬという気がする。激しく、大きく、おおかである」と書き残しています。



新本庁舎建設が始まる



農作物に凍霜被害



三郷地域で水道水が濁る（給水活動）



中学生議会を初開催



北穂高保育園改築工事が完了



樋口政幸さんが I P C 世界大会でメダル獲得



安曇野産わさび全国品評会で初の日本一



明科支所・公民館が完成

平成25年

2013

地下水保全に向けて条例施行

地下水を市民共有の財産として、地下水利用者の利用状況の届け出および年間利用量の報告の義務化、新規取水者の事前届け出制および一定量以上を取水する場合等の事前協議の義務化などを定めました。

- 1月 17日 北穂高保育園改築工事が完成
- 3月 27日 新本庁舎建設工事が始まる
- 4月 1日 地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例が施行
- 11日～農作物に凍霜被害
- 26日 長峰山に新休憩展望台が完成
- 28日 ふるさと観光大使に上松美香さんを任命
- 4月～5月 早春賦誕生 100 年各種イベント開催
- 5月 2日 清澤潤「暗黒日記」の原本が寄贈される
- 5日 童謡祭り 50 年
- 25日 県立こども病院創立 20 周年記念式典開催
- 6月 8日 松本山雅 FC、J 2 公式戦でホームタウン
安曇野市デーを開催
- 8日 県民豊科運動広場改修拡張工事が完了
- 20日 松くい虫被害対策に無人ヘリコプターによる薬剤散布を導入
- 7月 1日 安曇野市議会基本条例施行
- 10日 三郷地域約 5000 世帯で水道水が濁り断水
- 8月 6日 中学生議会を初開催
- 20日 車イス陸上競技・樋口政幸さんが I P C 世界大会で日本人初のメダル獲得を報告
- 9月 14日 講堂棟が完成し、明科支所・明科公民館全施設が利用開始
豊科近代美術館新館部分の増築工事が完了
- 20日 新本庁舎周辺の幹線道路が開通
- 10月 6日 宮澤宗弘市長が再選、議員定数 25 に
- 21日 学校給食に「中村屋カレー」が登場
- 29日 安曇野産わさび（穂高・有賀均さん生産）が全国品評会で初の日本一
- 11月 16日～第 1 回信州安曇野新そばと食の感謝祭開催



この年日本では
・富士山、世界文化遺産登録
・特定秘密保護法 成立
・流行語◎今でしょ / おもてなし / じゃじゃじゃ / 倍返し



高家スポーツ広場が完成



関東甲信地方を中心に記録的豪雪

平成26年

2014

関東甲信地方を中心に記録的豪雪

発達した低気圧と上空の寒気の影響で2月14日から15日にかけて、関東甲信地方を中心に記録的な大雪になりました。観測地点のある松本市では、2月の24時間降雪量としては過去最高の42センチを記録。国道19号や長野自動車道が通行止めとなり流通が滞るなど市民生活に大きな影響が出ました。

- 2月14日～関東甲信地方を中心に記録的豪雪
- 3月29日 豊科郷土博物館改修工事が完了
- 4月10日 ふるさと観光大使に、(株)中村屋を任命
- 26日 国営公園に田園文化ゾーンオープン
- 5月28日 「市歌制定委員会」を設置。市歌を募集
- 6月19日 松くい虫で有人ヘリ薬剤空中散布（明科・岩州公園周辺）
- 28日 高家スポーツ広場が完成
- 7月2日 名誉市民・田淵行男さん宅跡に記念碑建立
- 三郷南部保育園が移転新築完成
- 4日 市制施行10周年記念事業市民会議を設置。市民提案事業を募集（7月～9月）
- 8月3日 東京都江戸川区との友好都市交流が40周年。同区で記念式典開催
- 17日～豊科北中陸上部、全中陸上競技・女子4×100メートルリレーで準優勝
- 9月30日 県内初「市歯科口腔保健条例」を施行
- 10月12日 信州安曇野ハーフマラソンプレ大会開催
- 18日 アジアパラ競技大会で樋口政幸選手（豊科）が銅メダル獲得
- 30日 豊科南・北中学校で開校30周年記念式典開催
- 11月2日 堀金一周駅伝が50回の節目
- 10日 第4回平和首長会議国内加盟都市会議（松本市）で宮澤市長が事例発表
- 25日 松本山雅FCがJ1昇格報告
- 12月3日 市役所新本庁舎で記念植樹



この年日本では
・各地で記録的集中豪雨
・御嶽山噴火
・流行語◎ダメよ～ダメダメ



三郷南部保育園が移転新築完成



江戸川区との友好都市交流が40周年



豊科北中陸上部、全中陸上競技・女子4×100メートルリレーで準優勝



信州安曇野ハーフマラソンプレ大会開催



市役所新本庁舎で記念植樹



松本山雅FCがJ1昇格。堀金公民館で報告会



新本庁舎・防災広場しゅん工式



市役所新本庁舎で業務開始



東金市と友好都市締結



クラムザッハ町公式訪問団来訪



第1回信州安曇野ハーフマラソンを開催



新本庁舎開庁式



開庁記念イベントを開催



全国名水サミットを開催



穂高会館の改修工事が完了

平成27年

2015

市役所新本庁舎で業務開始

市制施行10周年記念事業を開催

1月22日には、待望の市役所新本庁舎が完成し、まちづくりの拠点が整備されました。5月7日には、本格的に業務を開始しました。
市制施行10周年を記念して、市民協働事業のほか、市歌の制定や第1回信州安曇野ハーフマラソン、全国名水サミット、市制施行10周年記念式典など多彩な催しが開催され、一体感の醸成が図られています。

- 1月22日 安曇野市新本庁舎・防災広場しゅん工式を開催
- 3月21日 中学生をオーストラリアへ派遣
- 29日 穂高会館の改修工事が完了
- 3月 地域審議会の設置期間が3月末で終了
- 4月1日 新本庁舎へ一部業務が移転
- 5日 千葉県東金市と友好都市締結
- 6日 「市歌制定委員会」で市歌歌詞決定
- 15日 市内初のラウンドアバウト交差点（本村「円」）が開通
- 17日 三郷地域の水源転換工事が完了
- 5月7日 市役所新本庁舎で業務開始
- デジタル同報系防災行政無線が開局
- 23日～市役所開庁イベントを開催
- 6月7日 第1回信州安曇野ハーフマラソンを開催
- 7月 4月からのふるさと納税が3億円を超える
- 5日 市消防団、松本消防協会大会3部門で優勝
- 26日 市消防団第4分団（豊科）が小型ポンプ操法の部で県大会準優勝
- 8月28日 第29回全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会（名水サミット）を開催
- 9月12日 松本山雅FC公式戦パブリックビューイングが市役所で行われる
- 10月4日 市制施行10周年記念式典を開催
- 10日 市民まつりを開催（予定）
- 21日 安曇野市1/2成人式を開催（予定）
- 11月21日 平和のつどいで被爆アオギリ二世の苗を植樹（予定）

10周年記念事業 レポート REPORT

新緑の中を駆け抜け 初夏の安曇野を満喫

第1回信州安曇野ハーフマラソン（同実行委員会主催）が、6月7日、豊科南部総合公園を発着点とする21.0975キロメートルのコースで行われました。大会には、南は沖縄県、北は北海道、全国各地から4,921人の選手が参加。選手たちは、新緑に包まれた初夏の安曇野を満喫しながら駆け抜けました。



拾ヶ堰を横断し走り抜ける選手たち



大会ゲストの有森裕子さんが5キロ地点で応援



豊科南部総合公園フィニッシュ地点

地域のおもてなし



本村区ではのぼり旗100本を準備し、沿道から声援を送りました。このほかに、給水・給食サービスや和太鼓の演奏などが各所で行われました。

SUPPORTER

市駅伝部 結成10年 更なる飛躍を目指します

週2回、仲間同士で練習しています。合併してチームの団結力が強まり、全体の力が上がりました。今年は、新しいメンバーも入り、今後の大会が楽しみです。6月に開催されるこの大会は、冬場の練習の成果を試せる良い機会です。これからは、大会運営などにも協力したいです。
(主将 丸山純一さん)



1

第1回信州安曇野ハーフマラソン Half marathon



市歌の披露に向けて練習に励む三郷小学校合唱部の皆さん

安曇野への愛着を歌に込めて♪

市制施行10周年を機会に、市の歌を制定。安曇野市を全国の皆さんに知っていただくとともに、市民の皆さんに永きにわたって愛着を持っていただきたいという考えから、市歌の歌詞を公募。入選3作品の中から市民投票により東京都在住の保岡直樹さんの歌詞に決定しました。

この歌詞に桐朋学園大学名誉教授の飯沼信義さんが作曲し、10月4日、市制施行10周年記念式典で発表されました。

市歌を心の架け橋に

安曇野市の自然や歴史、燦めく情景を想い浮かべながら作詞しました。神々しい山々、清冽な水の流れ、澄みわたる風景は、わたしを惹きつけます。

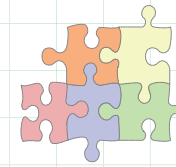
自分も安曇野市民になったつもりで、歌詞をつくりました。

歌には、人の心を結ぶ力があると思います。子どもからお年寄りまで、みんなの心をつなぐ希望の架け橋になってほしいと願っています。



作詞者
保岡直樹さん
(東京都世田谷区)

2 市歌制定



10周年記念事業レポート

市歌の歌声を 郷土創生の礎に！

市歌の制定にあたり、作曲のご指名を頂いたことに同郷の一人として心より感謝申し上げます。老荘青幼、すべての市民の皆さまに末永く愛唱される歌を作らねばと考えました。

親しみ易く、歌い易く、そして歌うたびに心の奥に何かを感じ取れるような深さと品格をもつ曲。難題でしたが、多くの皆さまの励ましで完成させることができました。この歌が不断に続けられる未来の郷土創造の礎石のひとつになって欲しいと、心から願っています。



作曲者
桐朋学園大学名誉教授
飯沼信義さん(豊科出身)



市歌CDジャケットと楽譜

市歌

一 水と緑と光の郷
雪を頂く 北アルプスに
今日もいきいき 陽が躍る
豊かな流れは 大地を拓き
息づくいのち 明日を呼ぶ
恵みの郷よ 安曇野は
水と緑が 光るまち
祭囃子に みなぎる力
はるか歴史を 曳く我ら
いにしえ人の 想いをいまに
伝え佇む 道祖神
ほほえみの郷よ 安曇野は
ほっと心が 和むまち
ケヤキの先の 流れる雲を
仰ぐ瞳に やどる夢
語らい交わす 熱き眼差し
この地を創る たくましさ
希望の郷よ 安曇野は
ともに未来へ 翔けるまち

Azumino City song

3 全国名水サミット in 安曇野

Water summit

育み、分かち合いながら生かす

昭和の名水百選「安曇野わさび田湧水群」がある安曇野市。全国の「名水」が所在する市町村の皆さんが集まる「名水サミット in 安曇野」が8月28日、29日の2日間、市内を会場に行われました。水環境や水質の保全などについて発表や意見交換が行われた「名水シンポジウム」では、市民の皆さんが安曇野の水や水質調査の結果を全国の皆さんに紹介し、安曇野の名水を全国に発信しました。



豊科北中学校科学部
部長 細萱 悠太くん
(3年・右)
副部長 鳥羽 虹希くん
(3年・左)

地元の誇れる水を守って いきたい

今回、水質調査をしてみて改めて安曇野の湧水や河川、堰の水は、全国でもきれいな水だと分かりました。同時に住んでいる自分たちもきれいな水が誇らしいと感じました。20年、30年経ってもきれいな水を保つには、住んでいる自分たちが進んで節水したり、水が汚れることを防いだりすることが必要だと思います。安曇野の水を守っていきましょう。



「安曇野の水」記念配布
名水サミットでは地下水を
水源とする市の水道水を
詰めたペットボトルが
記念に配布された。

大地の恵み、伝えよう、次代に！

豊科郷土博物館
館長 百瀬 新治さん
(堀金 岩原区)



二つの名水、清冽な「水」と堰を 巡る「水」を次代に残したい

安曇野の名水の特徴は、北アルプスを由来とする清冽な水を持つブランド力はもちろんですが、安曇野の田園風景を形づくる堰や田に張られた水ではないでしょうか。

元来、水が乏しい場所であった安曇野が先人たちの努力と知恵により堰が張り巡らされ現在の姿になりましたが、水に苦勞してきた安曇野の歴史も多くの皆さんに知って欲しいと思います。

自然がもたらした湧水と人々が育んできた堰の水、2つの「名水」が車の両輪のようになり、将来にわたって安曇野を名水の地にしていくのだと考えます。

先人の努力に応えるためにも、地下水の涵養や河川の水質保全はもちろん、用水の保全も大切です。

市内の小中学校では、堰を通して安曇野の自然や歴史を学び、自分たちで堰を守り継ぐ活動をしています。水の保全と共に堰の大切さを、未来を担う子どもたちに伝え、残していきましょう。



安曇野の農地を潤し、田園風景を支える堰（拾ヶ堰）



昭和の名水百選に選ばれた
安曇野わさび田湧水群



清らかな湧水

4

Film archive

あづみのフィルムアーカイブ

安曇野市の歩みを映像で綴る

家庭の押し入れなどに眠っている8ミリフィルムを掘り起こし、昔の安曇野の暮らしや文化風習をデジタル映像で甦らせるプロジェクト「あづみのフィルムアーカイブ」事業。市教育委員会と市民団体の「あづみのアーカイブ」が協力し、取り組みました。市民から提供された映像は、27年度末までに1本の映像にまとめ上映会で披露されます。



あづみのアーカイブ代表
映像作家 三好 大輔さん
(穂高 等々力町区)

失われつつある大切なものを伝えたい

一般の方々が撮影したホームムービーと呼ばれる家庭の記録は、時代を経た今、新たな意味を持ちはじめています。モノが溢れ情報社会と言われる現代、便利さと引き換えに大切なものが失われていると感じます。

かつて人々はモノを大切にし、地域のつながりの中で生きていました。モノは無くても豊かだった時代。その記録が高度経済成長期と重なるように流行した8ミリフィルムに刻まれています。

安曇野に暮らす人々の力をお借りしながら、この土地の風景や人々の暮らしの記憶を残していく「あづみのフィルムアーカイブ」。豊かな営みの記憶を8ミリフィルムを通して伝えていきます。



昭和34年 須砂渡キャンプ場



昭和36年 堀金小学校運動会

D51貨物列車や結婚式の映像を家族で見たいと思います

トラック輸送が発達していない時代に、材木、石炭、農産物などの物資を遠方に運ぶため、貨物列車が主に活用されていました。

当時、明科駅では、流通の拠点として物資の積み込み、積み下ろし作業が行われており、この時の貨物列車の入れ替え風景を8ミリフィルムで撮影したものです。

また、近所の割烹料理店で行った私の結婚式を叔父が撮影してくれましたが、その後、映写機もなく、ほとんど見ることができず、倉庫にしまったままになっていました。今回良い機会と思って、探し出して応募しました。デジタル化されたら、少し照れくさいですが、家族で見たいと思います。



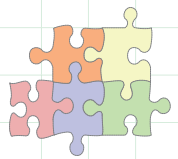
映像提供者
おほりこうじ
大堀 浩司さん
(明科 明科区)



昭和42年 結婚式の様子



昭和43年 明科駅で物資運搬の貨物列車の入れ替え作業



Challenge 1

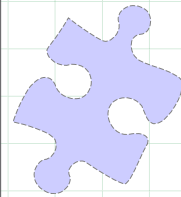


はぜ掛けの米作りに取り組む様子

岩原区の「岩原の自然と文化を守り育てる会」では、区内に残る祭りの伝承や安楽寺跡の整備、国営アルプスあづみの公園事業用地内で昔ながらの田んぼを復活させた米作りなどの活動をしています。本年度は、はぜ掛けによる米作りを通じて、市民の交流を深め、安曇野の田園風景を市内外に伝えようと取り組んでいます。

同会の活動を指導する尾日向安幸さん（堀金岩原区）は、岩原区では烏川からの取水に苦労したことや、機械がない戦前には、人の手で土を運んで田を少しずつ広げていったことなど昔について語り、「昔ながらの農作業は大変だが残していくことは大切。これからも会の活動を支えていきたい」と話してくれました。

昔ながらの
田んぼを復活



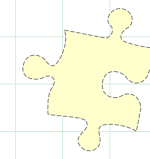
協働のまちづくり

安曇野の 未来に向かって 市民チャレンジ

市制施行 10 周年記念事業を通じ、市民の皆さんの一体感づくりと協働のまちづくりを進め、地域の活性化や課題解決にも繋げていきます。安曇野の未来に向けて新たな出発点となった本年、市民の皆さんが取り組む記念事業を紹介します。



廃線敷に桜を植栽する区民の皆さん



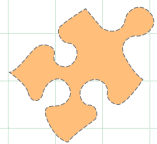
Challenge 4 廃線敷に桜並木のレールを

潮区では、5 月 25 日、旧国鉄篠ノ井線廃線敷の遊歩道に桜の苗木約 70 本を植えました。この日は、区民約 100 人が参加。この取り組みは、日ごろから区民が健康づくりの場としてウォーキングなどで利用している散策路を一層楽しく利用できるよう、また、観光客にも親しまれるようにと企画したものです。区長の矢澤さんは「住民が参加してみんなでやるのが大切。子どもたちが成長して何年後かに自分が植えたという思い出になればいいですね。区民の健康増進の場として、また多くの観光客が訪れ、みんなが憩える場となるよう、これからも環境づくりに取り組みます」と話してくれました。



潮区長 矢澤久男さん
(明科 潮区)

Challenge 2 穂高人形飾り物展示



展示された穂高人形

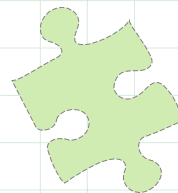
穂高人形・御船祭保存会では、5 月 7 日の市役所新本庁舎開庁に合わせ、穂高人形と飾り物を 5 月 7 日から 23 日まで庁舎 1 階ロビーに展示しました。会場には、軍記物や絵巻物などを題材にした人形が飾られ、訪れた皆さんは、精巧に作られた作品に見入っていました。

同会では、穂高神社の御船祭でのオフネの曳行（えいこう）や、所属する 3 つの教室がオフネに乗せる穂高人形を制作、技術継承のため後継者育成などにも取り組んでいます。会長の平林佳樹さん（穂高穂高区）は「展示を通じ、多くの皆さんに穂高人形を知ってもらうことができました。先人の努力により受け継がれてきた地域の伝統文化をこれからも残していきたい」と話してくれました。



穂高人形・御船祭保存会
の皆さん

Challenge 3 季刊・安曇野文化 市制施行 10 周年記念特集



地域の活性化と文化の発展を目的に、市の自然・歴史・人々などを紹介する季刊誌「安曇野文化」。本年 8 月に発刊した第 16 号では、市制施行 10 周年記念特集を組みました。同紙は、前身の「三郷文化」時代から地域のさまざまな年代の人々に執筆してもらい掲載。現在は、5 地域にいる編集委員が中心となり、毎号約 40 人の市民が寄稿しています。特集では、宮澤市長へのインタビューや、市歌制定に携わった皆さん、市民の皆さんが市に寄せる期待などを掲載しました。

委員長の曾根原さんは「文字を通じて市民が発表し合うことで、地域の良さを再発見し、市の一体感や絆が深まればうれしいです」と話します。また、編集室の林さんは「執筆者の想いや読者が寄せる感想からは、書き手と読み手、作り手の人の繋がりを感じ、市全体に広がっていると思います」と手ごたえを話してくれました。

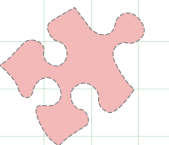


市制施行 10 周年記念特集掲載号



安曇野文化編集委員会
委員長 曾根原孝利さん
(三郷 七日市場区・右)
編集室 林公也さん
(堀金 小田多井区・左)

Challenge 5 光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト



毎年、登山道沿いに咲く様子が「昇り竜」に例えられる光城山（豊科光）の桜。市や、光城山を管理する上川手山林財産区管理会、地元区、里山保全活動を行う NPO 法人の代表者などで構成する「光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト」では、老木となり花があまり咲かなくなった桜が多くなったことから、本年 11 月に桜の植樹を行います。



昨年の試験植樹の様子

会長の高橋恒雄さん（豊科大口沢区）は「大正期に地元の青年たちが植えてから今日まで、地域で大切に桜を育ててきました」と先人の苦労を振り返り、大きく育つには多くの人の協力と年月が必要と、協力を呼びかけます。プロジェクトでは、人々が訪れる光城山を目指し、山にまつわる歴史文化の伝承、自然環境保全などにも取り組みます。

植樹には、安曇野市となった平成 17 年に生まれた市内の小学 4 年生の皆さんとその家族も参加する予定で、高橋さんは「植樹後も、一緒に桜の成長を見守り、光城山に足を運んでもらいたい」と期待を寄せました。



満開の頃の光城山の桜



宮澤宗弘市長

皆が地域で生き生きと暮らせるまちを創りたい

市制施行 10 周年を記念して、宮澤市長と本年度中に 20 歳になる 6 人の新成人の皆さんが、日ごろ感じていることや安曇野市のまちづくりなどについて語りました。

宮澤市長 それぞれお忙しいところお集りいただきありがとうございます。10 周年という大きな節目を迎え、一層一体感の醸成を図りながら安曇野を全国に発信して、安曇野市になって良かったと思われるまちづくりを皆さんとともに進めていきます。

皆さんは、ぜひ地域のリーダーとして活躍してほしい。これからは皆さんの時代ですので今日は率直な意見を聞かせてください。

20 歳になって感じていることは？

一人暮らしで、周りにどれだけ助けられてきたか、両親がどれだけ偉大だったか実感

伊藤 行動に気を付けつつもこれからの時間を満喫したいです。お酒が解禁されたことが、すごくうれしいです。

吉原 まだ実感はありませんが、大人になったということで、これからは責任が一層ついてくると感じています。自分の行動一つ一つに気を付けたいと思います。

平川 自分の将来について考えなくてはいけない時期だと思います。自分は将来どういう職業につきたいか、特に決まっていなくて、明確にしていきたいと思います。

巻山 大学でも就職の話が徐々に出ていますが、こちらで就職したいと考え始めるようになりました。

岩垂 社会に出て働いており、一人の大人として見られるので、自ら考えて自ら行動できるような大人になりたいと思います。

小澤 大学に進学して一人で生活するようになり、これまで周りにどれだけ助けられてきたか、両親がどれだけ偉大だったかということ強く感じました。まだ子どもの部分を直していきたいと思っています。

宮澤市長 今は物が豊かな時代で、自由にのびのびと生活してきたと思いますが、もう少し世の中に対してこうあった方がいいとか、夢を持ってほしいと思います。20 歳は、一人前の大人として見られる社会だから、責任もそれだけあります。権利もあるけれど義務も背負わざるを得ない。個性や能力を伸ばして将来の安曇野をリード、あるいは日本をリードできるような人材に育ってほしいと思います。

平川准多さん
(大学生 穂高)

大学で経済学を専攻。自分で何かを見つけ新しいことにチャレンジしたいと話します。

安曇野市をもっと大胆奇抜に宣伝してほしい

市長と新成人が語る
これからの安曇野

安曇野市の魅力、これからどんな市になってほしい？

外国のお客様に対して安曇野をもっとアピールしてはどうか。魅力的な都市にしていけるために、もっと何か特色が必要では。人が触れ合える温かな環境がもっと増えてほしい。

小澤 自然が豊かで、静かなところ、あと景色がきれいなところが好きです。大学で外国人の先生に自己紹介した時に出身地を答えると、安曇野市のことを知っていました。意外と海外の人にも知られていることから、海外に向けて力を入れて PR した方がいいと思います。

岩垂 市の魅力は、山がすごくきれいなところです。堀金と三郷の境の拾ヶ堰が流れている所、そこは春、桜と拾ヶ堰と常念がすごくきれいに見えて大好きです。朝の田園風景や山、穂高神社など魅力がたくさんあるので、もっと PR していけばいいと思います。私は大町にある駅に勤めていますが、東南アジアからのインバウンドのお客様が多いので、安曇野のことをしっかりアピールできれば、さらに安曇野が潤うと思います。

巻山 高校に通っていた頃、有明駅がすごくいい場所だと感じました。当時、おそらく定年を過ぎた方が働いていて、いつも温かく接してくれました。そういう環境がもっと増えれば良いと思います。

平川 安曇野と言ったら自然がきれいですが、逆に言えば安曇野の特徴がそれくらいしかないとも言えます。もっと魅力的な都市にしていけないと人口減少が進んで、自分たちのふるさとが寂しいところになってしまいます。魅力的な都市にしていけるために、もっと何か特色が必要だと思います。例えばスポーツが活発な地域だと、子どもたちがスポーツをして地域全体が活発になっていくと思います。

吉原 ここに来るときに自分の最寄駅まで歩きましたが、水がすごくきれいで、夜は星もすごくきれいで改めて安曇野の良いところに気づきました。大学で自己紹介したときに安曇野市を知らない人が多くて、若い人がもっと安曇野のことを知ってくれたらいいと思います。

伊藤 自然が誇れるものなので窓を開ければいい空気が入ってきたり、水がおいしかったり、今のままの安曇野でいいと思います。

小澤夏生さん
(大学生 豊科)

将来の夢は英語の先生になること。このため来年度カナダに留学予定だと話します。

伊藤大樹さん
(会社員 堀金烏川)

市内の事業所に勤務。20 歳になり、これからの時間を一層満喫したいと話します。

若い世代が住みやすい時代にするために自分も行動したい

安曇野に愛着を持ってこれからも貢献したい

市制施行 10 周年記念座談会

市長×新成人

20 歳





よしはら ゆき
吉原葉月さん
(大学生 穂高)

商学部でマーケティングを専攻。将来はこれを生かしたいと話します。



まきや まりこ
巻山梨子さん
(大学生 明科七貴)

建築士を目指しており、地元で就職したいと話します。

安曇野は子育てしやすい環境、
もっと強調してほしい

地域の人と自分からつながり
を求めることが大切

宮澤市長 安曇野らしい原風景や地下水など、貴重な資源を後世に伝えていかなければなりません。一方で、生活していくためには、こうした資源を活用しながら企業誘致など産業振興を図り、雇用の場を確保していかなければなりません。雇用の場が生まれれば、市の経済、財政も潤います。こうしたことから市の将来像「北アルプスに育まれ共に響き合う田園産業都市安曇野」を掲げ取り組んでいます。平川君が言ったように自然も大切だけれど、もっと何か一つ突出するもの、安曇野らしさ、差別化を図れるもの、他の自治体に誇れるものを生み出していないと人口減少時代には対抗できません。知恵を出し合って人口減少を食い止める必要があります。

人口減少問題・結婚について感じていることは？

助成金制度の充実や企業誘致は有効だと思う。

結婚してここに住みたい、平和で子どもを安心して育てられる。

巻山 若い人たちが戻ってこない理由を周りの友達に聞くと、戻って来たいけど働く場所がないと言います。工場を造るにも建物の高さや場所など景観に配慮し、環境保全と産業発展をバランス良くやっていくしかないと思います。

岩垂 人口減少は、原因が一つではないので、ここを直せば人口が増えるという解決の糸口が見つかりません。結婚できるかどうか今の自分には想像できません。若者の意識改革というか、安曇野で家族と一緒に暮らしたいと思えるような政策を進めればもっと若者も残ると思います。助成金制度など魅力的だと思います。

小澤 人口減少の理由は単純に結婚したくないという人が増えたこともありますが、子どもを育てていく自信やお金がないことも原因なので、助成金を出すことは有効だと思います。市が企業を誘致して雇用が増えれば、財政が潤い助成金を充実させることができると思います。

平川 人口減少をくい止めるには、市外から人を呼び寄せることが重要ですし、同時に市からの流出も防がなくてはいけないと思います。安曇野ならではの気候を生かして大きな企業を誘致することが重要だと思います。また、助成制度など安曇野市を大胆な方法でもっと PR すれば状況が変わってくると思います。

吉原 安曇野市は、自然が豊かで子育てをしやすい環境だと思うのもっと強調してほしい。助成金で支援することも大事だと思います。

伊藤 住むことに関しては、安曇野市の方が適していて、自分も結婚したいし、結婚したらここに住みたいと思います。平和で子どもも安心して育てられるところを生かせばいいと思います。



いわだ せいや
岩垂聖也さん
(会社員 三郷明盛)

JR 東日本に勤務。信濃大町駅で窓口業務をはじめさまざまな業務を担当していると話します。



安曇野で家族と一緒に
暮らしたいと思える政策を

友人を大切に、両親、家族を
大切に、そして自分を大切に

市長 保育料の減免や中学生までの医療費の無料化などの子育て支援や、固定資産税の減免などの企業誘致策、空き店舗を活用した新たな企業家への助成制度など、さまざまな支援制度がありますが、もう少し PR をする必要があるかもしれないと思います。市では、このほか農業後継者を育成するための支援制度も充実させ取り組んでいます。

結婚については、経済的な理由は大きいと思うけれど、結婚が面倒、自由が利かなくなってしまうという考え方の人も増えています。いずれにしても人口減少は、生産力や国力の低下を招いてしまうので、皆さんには、ぜひ結婚をして幸せな家庭を築いてほしい。そして、これからの時代、皆さんが中心となってきます。安曇野にいても、都会にいても、その地域あるいは企業で必要の人になってもらいたいと思います。

座談会を振り返って

人と一緒に生きていくことに積極的じゃない人が増えてきていると思いました。

小澤 市がどんなことに取り組んでいるのか知ることができました。結婚しないことが、だめだと言い切れない時代になり、難しいところですが、若い世代が住みやすい時代になることを願っていますし、自分でも何か行動しなければいけないと感じました。

岩垂 貴重な体験でいい勉強になりました。人口減少とか安曇野の今後の展開とか、同世代の皆さんの意見が聞けて良かったです。今後は一人の成人として安曇野を背負っていかなくてはなりませんので、その自覚をしっかりと持って過ごしていきたいと思います。

巻山 未婚者が多いこと、また子どもが少ないこと、それは経済的な理由だけじゃないことなどは分かったんですが、人と一緒に生きていくことに積極的じゃない人が増えてきていると思いました。根本的な精神の部分に関わってくると思います。将来のことを考えると地域の人と自分からつながりを求めることが結局は大事になってくると感じました。

平川 自治体が直面する問題はどれも同じでそれぞれが頑張っていると思います。その中で今までの考え方にとらわれずに、もっとフレッシュな考え方で PR して、安曇野市がもっと有名になることを願っています。そのために自分たちも頑張りたいと思います。

吉原 地元を守っていききたいと思いましたし、課題の解決に自分も関わっていききたいと思いました。あと県外に住んで安曇野の良さを改めて感じる事ができたので将来戻って来たいと思いました。

伊藤 これまで知らなかったことを改めて知ることができました。これからも安曇野市に貢献していきたいと思います。そして、安曇野に愛着を持って過ごしていきたいと思います。

市長 皆さんは奨学金制度を活用していますか。市では、基金を活用して、市独自の奨学金制度的なもので経済的に困窮する学生の皆さんを支援ができないか検討していますので、気付いたことは提案してほしいと思います。

皆さんはすでに選挙権を得ているので、これからは政治にも関心を持って積極的に参画してほしいと思います。あと親身になって相談に乗ってくれる友人を大切に、両親、家族を大切に、そして自分を大切にしてください。これからの人生で挫折もあると思います。そんな時は仲間の支えを借りて、自分に自信と誇りを持って頑張してほしいと思います。

◆定住意向や人口減少問題等に関する意識調査結果より
(18歳から69歳の男女2,000人を対象に市が27年度に実施)

□人口減少、少子高齢化の理由(複数回答)

- 1「経済的負担を心配して産む子ども数が減っていること」43.4%
- 2「市内では働く職場が限られ市外に出ていかざるを得ないこと」40.4%
- 3「男女ともに未婚率が高くなっていること」39.7%

□人口減少・少子高齢化問題を解決するために必要な取り組み(複数回答)

- 1「企業誘致」30.8%
- 2「移住促進のための空き家等の活用の PR」27.6%
- 3「子育て世帯への助成金等の支援」25.3%

□未婚化、晩婚化が進んでいる原因(複数回答)

- 1「積極的に結婚しようという意識が減ってきているから」47.1%
- 2「家庭を持つ経済力がないから」28.6%
- 3「自由で気楽な独身生活に価値観を置くようになった」27.6%

以上の項目を上げる割合が高かった。



市制施行10周年記念座談会
市長×新成人

AZUMINO あづみの

将来都市像

北アルプスに育まれ
共に響き合う
田園産業都市安曇野

第1次安曇野市総合計画 基本構想 後期基本計画

[平成25年度～平成29年度]

重点施策

活力あふれるまちづくり

積極的な産業振興で雇用の場の確保を図り、活力あふれるまちづくりに取り組みます。



あづみ野産業団地



重点施策

健康長寿のまちづくり

市民一人ひとりが地域の中で生き生きと暮らす、健康長寿のまちづくりに取り組みます。



重点施策

豊かな人を育むまちづくり

世界的な視野を持ち、心豊かで地域で活躍する人を育てるまちづくりに取り組みます。



中学生海外ホームステイ
交流派遣事業



中学生議会

将来都市像の実現に向けた施策

市民と行政が協働・連携を深め、恵まれた自然環境の保全と活力のある産業に支えられた魅力的な都市環境の創造に努め、人と人、地域と地域が絆を強め響き合いながら、成長・発展するまちを目指します。

分野別基本方針

① 環境に優しいまちの形成

身近な環境を守り育てることで、豊かで素晴らしい環境を次代に引き継ぐだけでなく、自らも快適に生活できるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 自然と共生するまち
- ☐ 環境への責任を果たすまち
- ☐ 環境に優しいエネルギーをつくるまち



地下水保全（安曇野わさび田湧水群）



環境美化活動

② 穏やかに暮らせるまちの形成

お互いを敬う気持ちを大切に、互いに支え合うことで、誰もが生き生きと安心して暮らすことのできるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 健やかに暮らせるまち
- ☐ 認め合い支えあえるまち
- ☐ 安心を支えるまち



歯の健康の促進



各種健康教室の開催

③ 人と文化を育むまちの形成

安曇野という地に根付き、他に誇ることのできる独自の教育と文化の薫るまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 郷土を担う人を育むまち
- ☐ 生涯を通じて学びあうまち
- ☐ 文化を学び育むまち



新進音楽家オーディション



職場体験

④ 安全・安心・快適なまちの形成

誰もが安全・安心に、さらには、快適さを感じて暮らすことのできるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 災害に強いまち
- ☐ 事件・事故を防ぐまち
- ☐ 風土に根ざした魅力あるまち
- ☐ 利便性の高いまち



防災広場



ラウンドアバウト交差点

⑤ 豊かな産業のあるまちの形成

市内外での交流を促進し、安曇野の地と私たちの暮らしに、真の豊かさをもたらすことのできる産業のあるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 次代へつなぐ農林水産業を振興するまち
- ☐ 活力ある商工観光業を振興するまち
- ☐ 安曇野モデル構築に取り組むまち



山岳観光



安曇野ブランド米の確立

都市経営方針

⑥ 協働によるまちづくりの推進

誰もが積極的に自らの責任と役割を果たすことで、自助・共助・公助に基づく協働のまちづくりを進めます。

▽主要施策

- ☐ 協働によるまちづくりの推進



アルプス花街道作業風景とマリーゴールド



⑦ 経営的視点に立った行財政運営の推進

生活者視点、経営的視点にたった市政運営により、行財政改革の取り組みを進めます。

▽主要施策

- ☐ 経営的視点の行財政運営がなされるまち

AZUMINO あづみの 将来都市像

北アルプスに育まれ
共に響き合う
田園産業都市安曇野

第1次安曇野市総合計画 基本構想 後期基本計画

[平成25年度～平成29年度]

重点施策

活力あふれるまちづくり

積極的な産業振興で雇用の場の確保を図り、活力あふれるまちづくりに取り組みます。



あづみ野産業団地



重点施策

健康長寿のまちづくり

市民一人ひとりが地域の中で生き生きと暮らす、健康長寿のまちづくりに取り組みます。



重点施策

豊かな人を育むまちづくり

世界的な視野を持ち、心豊かで地域で活躍する人を育てるまちづくりに取り組みます。



中学生海外ホームステイ
交流派遣事業



中学生議会

将来都市像の実現に向けた施策

市民と行政が協働・連携を深め、恵まれた自然環境の保全と活力のある産業に支えられた魅力的な都市環境の創造に努め、人と人、地域と地域が絆を強め響き合いながら、成長・発展するまちを目指します。

分野別基本方針

① 環境に優しいまちの形成

身近な環境を守り育てることで、豊かで素晴らしい環境を次代に引き継ぐだけでなく、自らも快適に生活できるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 自然と共生するまち
- ☐ 環境への責任を果たすまち
- ☐ 環境に優しいエネルギーをつくるまち



地下水保全（安曇野わさび田湧水群）



環境美化活動

② 穏やかに暮らせるまちの形成

お互いを敬う気持ちを大切に、互いに支え合うことで、誰もが生き生きと安心して暮らすことのできるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 健やかに暮らせるまち
- ☐ 認め合い支えあえるまち
- ☐ 安心を支えるまち



歯の健康の促進



各種健康教室の開催

③ 人と文化を育むまちの形成

安曇野という地に根付き、他に誇ることのできる独自の教育と文化の薫るまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 郷土を担う人を育むまち
- ☐ 生涯を通じて学びあうまち
- ☐ 文化を学び育むまち



新進音楽家オーディション



職場体験

④ 安全・安心・快適なまちの形成

誰もが安全・安心に、さらには、快適さを感じて暮らすことのできるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 災害に強いまち
- ☐ 事件・事故を防ぐまち
- ☐ 風土に根ざした魅力あるまち
- ☐ 利便性の高いまち



防災広場



ラウンドアバウト交差点

⑤ 豊かな産業のあるまちの形成

市内外での交流を促進し、安曇野の地と私たちの暮らしに、真の豊かさをもたらすことのできる産業のあるまちをつくります。

▽主要施策

- ☐ 次代へつなぐ農林水産業を振興するまち
- ☐ 活力ある商工観光業を振興するまち
- ☐ 安曇野モデル構築に取り組むまち



山岳観光



安曇野ブランド米の確立

都市経営方針

⑥ 協働によるまちづくりの推進

誰もが積極的に自らの責任と役割を果たすことで、自助・共助・公助に基づく協働のまちづくりを進めます。

▽主要施策

- ☐ 協働によるまちづくりの推進



アルプス花街道作業風景とマリーゴールド



⑦ 経営的視点に立った行財政運営の推進

生活者視点、経営的視点にたった市政運営により、行財政改革の取り組みを進めます。

▽主要施策

- ☐ 経営的視点の行財政運営がなされるまち

市章



安曇野市の「安」の文字を図案化し、色彩は自然をモチーフにした緑色・デザインの中中央上部の輪は安曇野市民の輪と団結をイメージしています。

市民憲章

安曇野市は、北アルプスの麓(ふもと)に広がり、美しい自然や豊かな歴史・文化に恵まれたまちです。

わたしたちは、ここに生きる幸せと誇りをもって、お互いに尊重し合い、より住みよいまちをつくるために、この憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくります
- 一 学ぶ心を育て、文化のかおるまちをつくります
- 一 思いやりを大切にし、健康であたたかいまちをつくります
- 一 働くことを喜び、活力のあるまちをつくります
- 一 支えあいの輪を広げ、安全で安心なまちをつくります

(平成 20 年 1 月 1 日制定)

平和都市宣言

雄大な北アルプスの麓 清らかな水
緑かがやく 自然豊かな安曇野を
私たちは守っていきます
健康で幸せな生活のために
みんなで支え合い 差別のない社会を
私たちは築いていきます
みんなの笑顔が
子どもたちの明るい未来が
いきいきとした命の営みが続くことを
私たちは求めています
平和を願う人々と手を取り合って
全ての不安や争いをなくすために
私たちは行動します
私たちは 美しい故郷 安曇野から
平和な社会の実現に向け
ここに「平和都市」を宣言します

(平成 24 年 12 月 19 日制定)

歴代市長

平林伊三郎 平成 17 年 10 月 23 日～平成 21 年 10 月 22 日
宮澤 宗弘 平成 21 年 10 月 23 日～平成 25 年 10 月 22 日(1 期)
平成 25 年 10 月 23 日～平成 29 年 10 月 22 日(2 期)

歴代副市長(助役)

西山 頤司 平成 17 年 12 月 22 日～平成 21 年 10 月 23 日
村上 広志 平成 21 年 11 月 9 日～平成 25 年 11 月 8 日(1 期)
平成 25 年 11 月 9 日～平成 29 年 11 月 8 日(2 期)

歴代収入役

青木 武良 平成 17 年 12 月 22 日～平成 21 年 10 月 31 日

歴代教育長

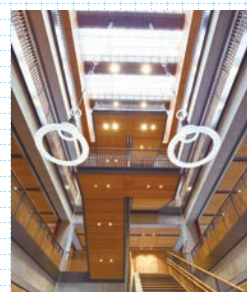
菅沼 完二 平成 17 年 10 月 1 日～平成 17 年 11 月 8 日
望月 映洲 平成 17 年 11 月 9 日～平成 21 年 10 月 23 日
丸山 武人 平成 21 年 11 月 9 日～平成 25 年 11 月 8 日
須澤 真広 平成 25 年 11 月 9 日～平成 26 年 7 月 31 日
望月 正勝 平成 26 年 8 月 1 日～平成 26 年 11 月 8 日
橋渡 勝也 平成 26 年 11 月 9 日～平成 30 年 11 月 8 日

歴代議長

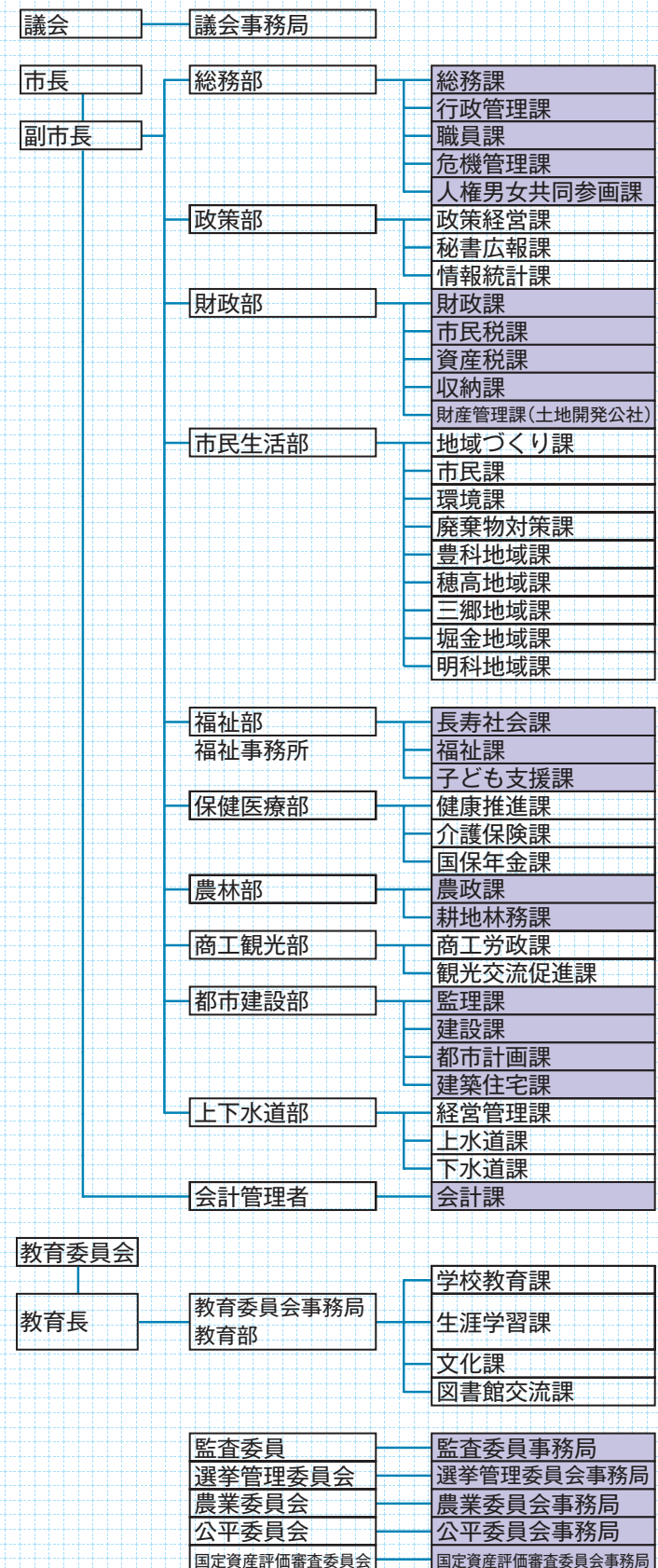
水谷 嘉明 平成 17 年 11 月 7 日～平成 19 年 10 月 30 日
平成 19 年 10 月 30 日～平成 21 年 10 月 22 日
藤原 廣徳 平成 21 年 11 月 6 日～平成 23 年 11 月 8 日
高山 一榮 平成 23 年 11 月 8 日～平成 25 年 10 月 22 日
宮下 明博 平成 25 年 10 月 30 日～

歴代副議長

西澤 韶修 平成 17 年 11 月 7 日～平成 19 年 10 月 30 日
松尾 宏 平成 19 年 10 月 30 日～平成 21 年 10 月 22 日
丸山 祐之 平成 21 年 11 月 6 日～平成 23 年 11 月 8 日
山田 高久 平成 23 年 11 月 8 日～平成 25 年 10 月 22 日
平林 徳子 平成 25 年 10 月 30 日～



安曇野市組織図(平成 27 年 4 月 1 日現在)



近年整備された主な施設を紹介



市役所新庁舎と本小松石の銘板石



防災広場



豊科交流学习センター「きぼう」



高家スポーツ広場



明科支所・公民館



穂高交流学习センター「みらい」



穂高会館(改修)



豊科近代美術館(増築)



ほりでーゆー四季の郷(改修)



三郷児童館



左から北部、中部、南部各学校給食センター



三郷南部保育園



北穂高保育園



豊科南部保育園



明科北保育園



有明の森保育園



有明あおぞら保育園



堀金保育園

市章



安曇野市の「安」の文字を図案化し、色彩は自然をモチーフにした緑色・デザインの中
央上部の輪は安曇野市民の輪と団結をイメージしています。

市民憲章

安曇野市は、北アルプスの麓(ふもと)に広がり、美しい自然や豊かな歴史・文化に恵まれたまちです。

わたしたちは、ここに生きる幸せと誇りをもって、お互いに尊重し合い、より住みよいまちをつくるために、この憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくります
- 一 学ぶ心を育て、文化のかおるまちをつくります
- 一 思いやりを大切にし、健康であたたかいまちをつくります
- 一 働くことを喜び、活力のあるまちをつくります
- 一 支えあいの輪を広げ、安全で安心なまちをつくります

(平成 20 年 1 月 1 日制定)

平和都市宣言

雄大な北アルプスの麓 清らかな水
緑かがやく 自然豊かな安曇野を
私たちは守っていきます
健康で幸せな生活のために
みんなで支え合い 差別のない社会を
私たちは築いていきます
みんなの笑顔が
子どもたちの明るい未来が
いきいきとした命の営みが続くことを
私たちは求めています
平和を願う人々と手を取り合って
全ての不安や争いをなくすために
私たちは行動します
私たちは 美しい故郷 安曇野から
平和な社会の実現に向け
ここに「平和都市」を宣言します

(平成 24 年 12 月 19 日制定)

歴代市長

平林伊三郎 平成 17 年 10 月 23 日～平成 21 年 10 月 22 日
宮澤 宗弘 平成 21 年 10 月 23 日～平成 25 年 10 月 22 日
(1 期)
平成 25 年 10 月 23 日～平成 29 年 10 月 22 日
(2 期)

歴代副市長 (助役)

西山 頤司 平成 17 年 12 月 22 日～平成 21 年 10 月 23 日
村上 広志 平成 21 年 11 月 9 日～平成 25 年 11 月 8 日 (1 期)
平成 25 年 11 月 9 日～平成 29 年 11 月 8 日 (2 期)

歴代収入役

青木 武良 平成 17 年 12 月 22 日～平成 21 年 10 月 31 日

歴代教育長

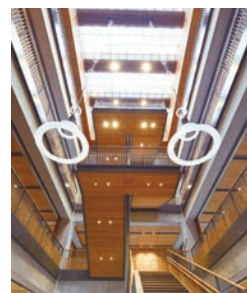
菅沼 完二 平成 17 年 10 月 1 日～平成 17 年 11 月 8 日
望月 映洲 平成 17 年 11 月 9 日～平成 21 年 10 月 23 日
丸山 武人 平成 21 年 11 月 9 日～平成 25 年 11 月 8 日
須澤 真広 平成 25 年 11 月 9 日～平成 26 年 7 月 31 日
望月 正勝 平成 26 年 8 月 1 日～平成 26 年 11 月 8 日
橋渡 勝也 平成 26 年 11 月 9 日～平成 30 年 11 月 8 日

歴代議長

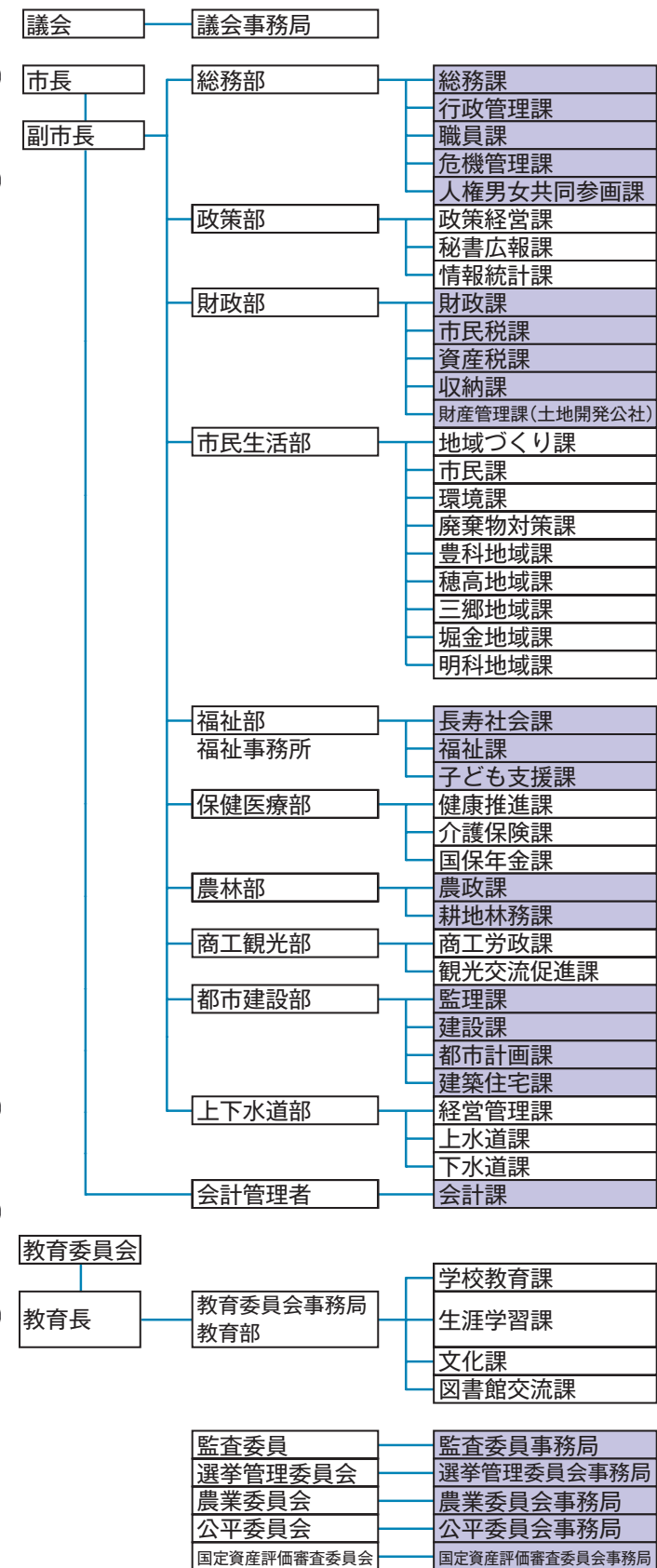
水谷 嘉明 平成 17 年 11 月 7 日～平成 19 年 10 月 30 日
平成 19 年 10 月 30 日～平成 21 年 10 月 22 日
藤原 廣徳 平成 21 年 11 月 6 日～平成 23 年 11 月 8 日
高山 一榮 平成 23 年 11 月 8 日～平成 25 年 10 月 22 日
宮下 明博 平成 25 年 10 月 30 日～

歴代副議長

西澤 韶修 平成 17 年 11 月 7 日～平成 19 年 10 月 30 日
松尾 宏 平成 19 年 10 月 30 日～平成 21 年 10 月 22 日
丸山 祐之 平成 21 年 11 月 6 日～平成 23 年 11 月 8 日
山田 高久 平成 23 年 11 月 8 日～平成 25 年 10 月 22 日
平林 徳子 平成 25 年 10 月 30 日～



安曇野市組織図 (平成 27 年 4 月 1 日現在)

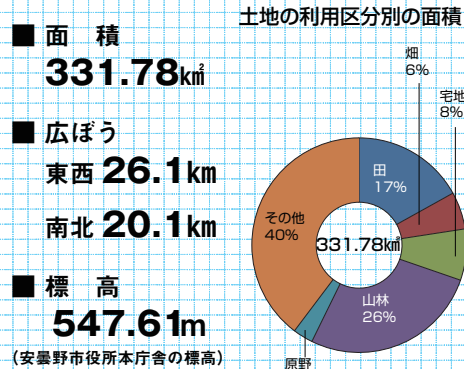


近年整備された主な施設を紹介



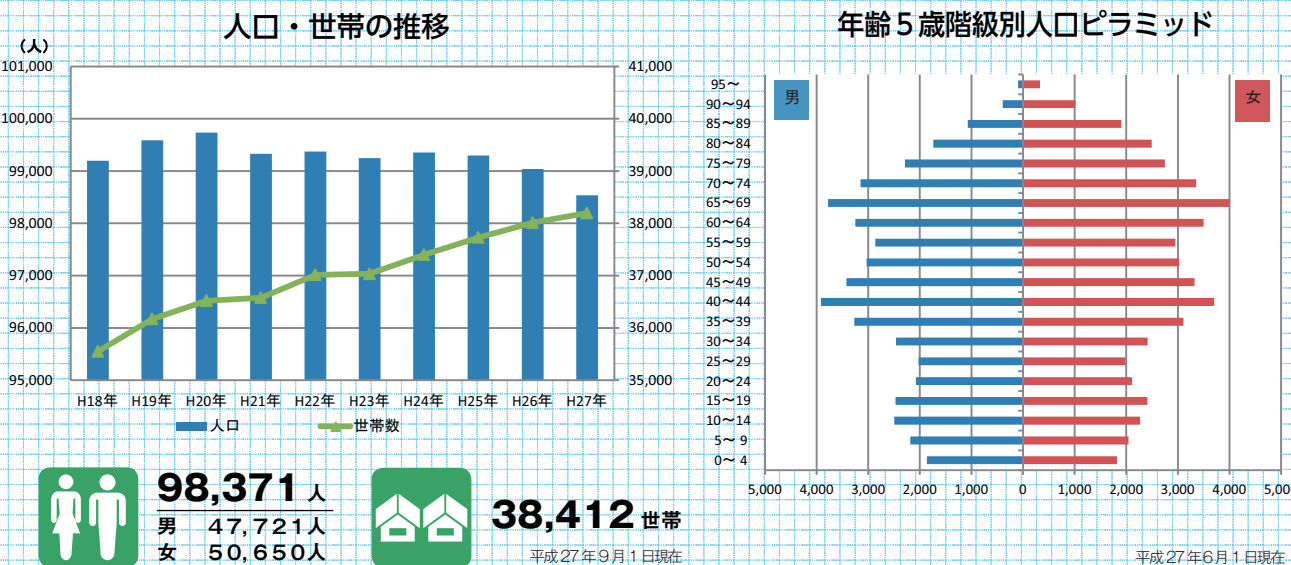
概要

安曇野市は長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接しています。西部は雄大な北アルプス連峰がそびえ立つ中部山岳国立公園の山岳地帯であり、海拔3,000メートル級の象徴的な山々があります。北アルプスを源とする中房川、烏川、梓川、高瀬川などが犀川に合流する東部は、海拔500から700メートルの概ね平坦な複合扇状地となっています。

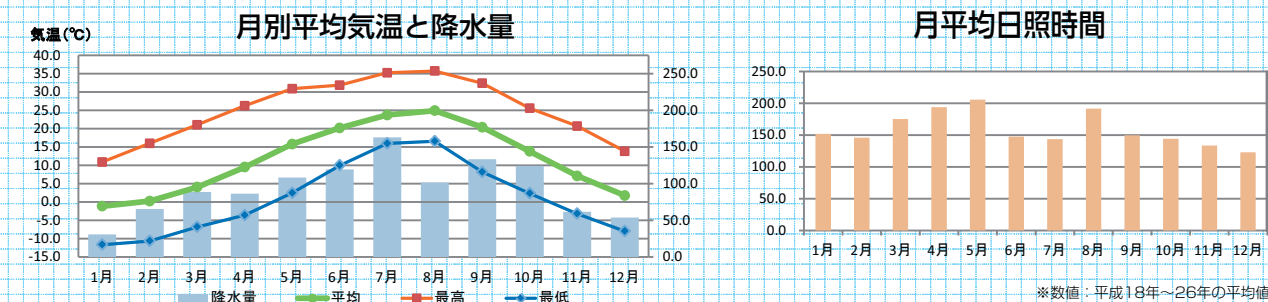


人口・世帯

住民基本台帳および外国人登録者数



気候・降水量



市の木・市の花・安曇野ロゴマーク

市の花 わさび（アブラナ科）

日本一の生産量を誇り、特産品である「わさび」。清涼な水に生まれ身を寄せ合って咲く白い花は、安曇野市の美しい自然のもとで人々が支えあっていく象徴としてふさわしい花である、として市の花に選ばれました。



安曇野ロゴマーク 朝が好きになる街

爽やかな青空を背景にした北アルプスの山々。その裾野に広がる安曇野の田園風景、美しい水、農作物、温かい人々など。安曇野のたくさんの魅力を、様々な色で表現しています。パッチワークのような可愛らしさのある、安曇野市のイメージを象徴するロゴマークです。



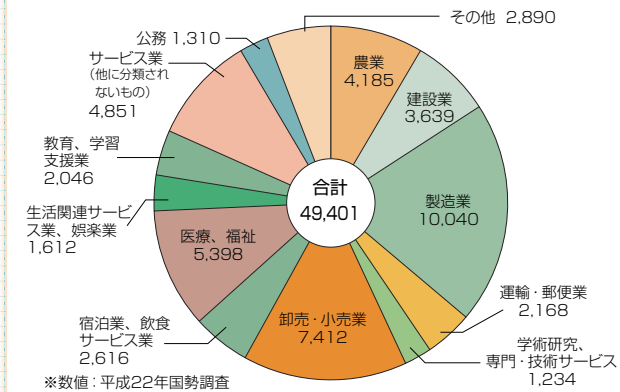
市の木 けやき（ニレ科）

けやきは、安曇野では屋敷林などに使われ市民にも親しまれています。大地にしっかり根を張り、幹や枝が天に向かって堂々と伸びる姿から、安曇野市の発展の象徴としてふさわしい木である、として市の木に選ばれました。

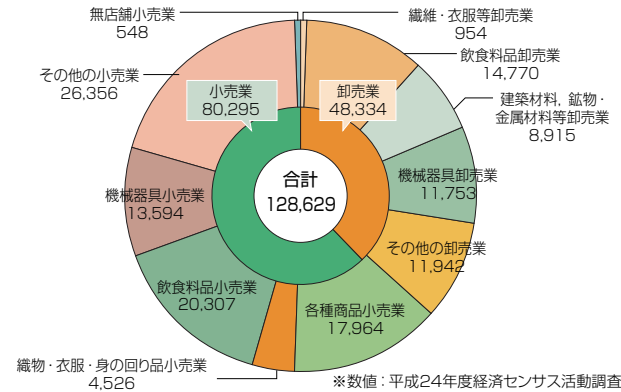


産業

産業別就業者数（15歳以上就業者数）（単位：人）



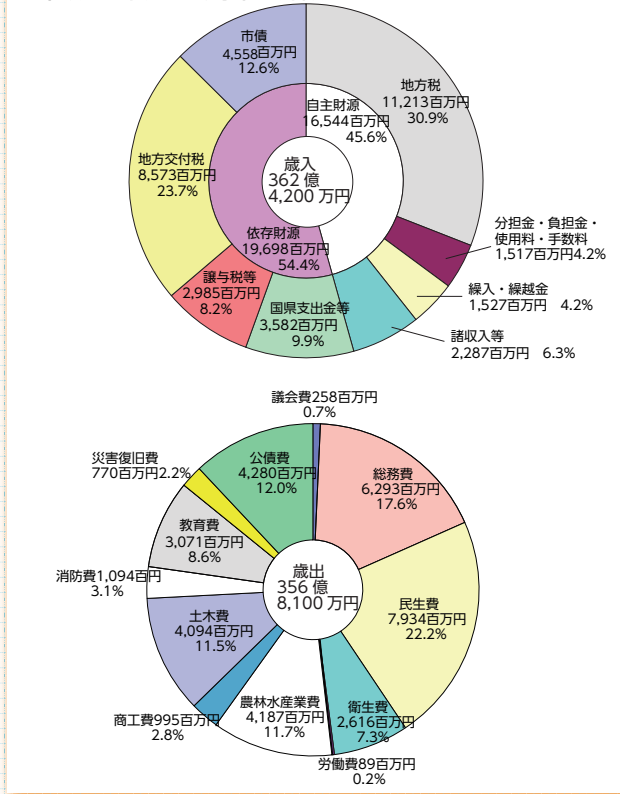
産業分類別の年間商品販売額（単位：百万円）



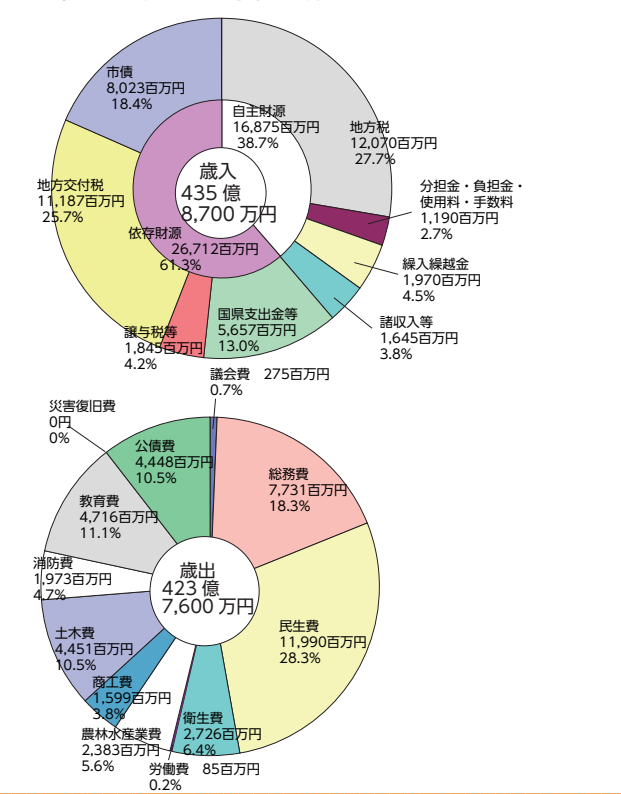
■ 農業 米の作付け面積3,200ha 収穫量19,300t（共に県下1位）※数値平成26年度農林水産関係町村別統計

財政状況

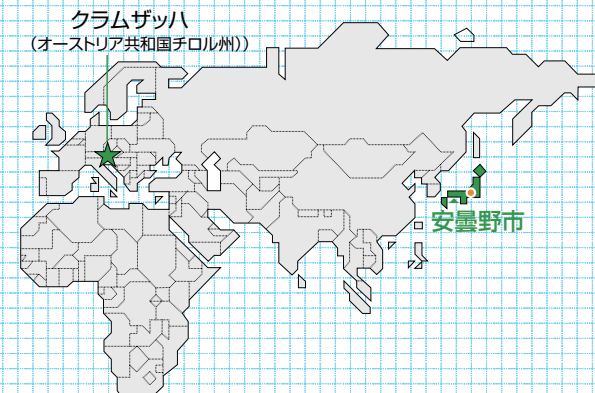
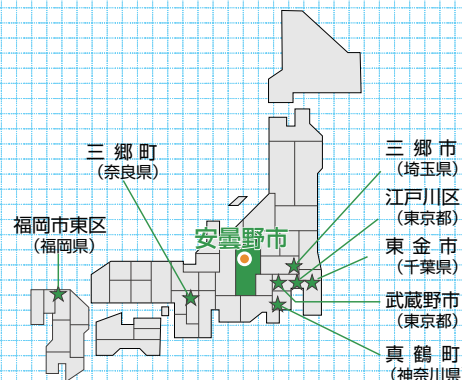
平成18年度安曇野市決算額（普通会計）



平成26年度安曇野市決算額（普通会計）



姉妹友好提携都市・友好交流都市



大好き！安曇野

安曇野市誕生 10 周年を記念して、市民の皆さんから安曇野市へ、多くの心温まるメッセージをお寄せいただきました。

※名前が記載されていない箇所は匿名希望です。

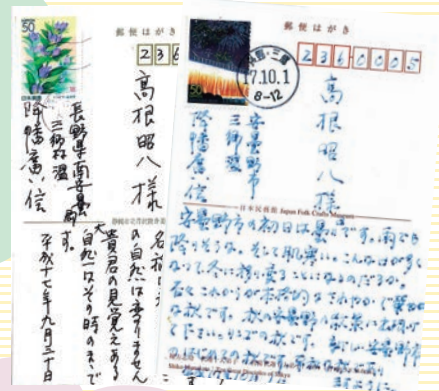
「たまねぎ」も「わさび」も「リンゴ」..もみんな、私のまちの特産になりました。

平成生まれの私だけど、友だちに誇れる 自然豊かな安曇野のこと

安曇野と聞くと甦るあの感動「また行こう」そんな市でありたい。

安曇野は、自然と文化に恵まれて、アルプスの懷に守られ、豊富な湧き水、わさび田を潤し、堰の水は、田園地帯を潤す。
小福敬子さん（豊科）

三郷温在住の降幡廣信さんが、10 年前に横浜市在住のいとこの高根昭八さんに送った 2 通のハガキから「中略…明日から新しい安曇野市です。名称は変わってもこの自然は変わりません。」(H17.9.30)「安曇野市の初日は曇りです。雨でも降りそうな、そして肌寒い。中略…これからが本格的なさわやかで華やかな秋です。リンゴの秋です。新しい安曇野市のはじめての秋です。平和の秋でありますように。」(H17.10.1)

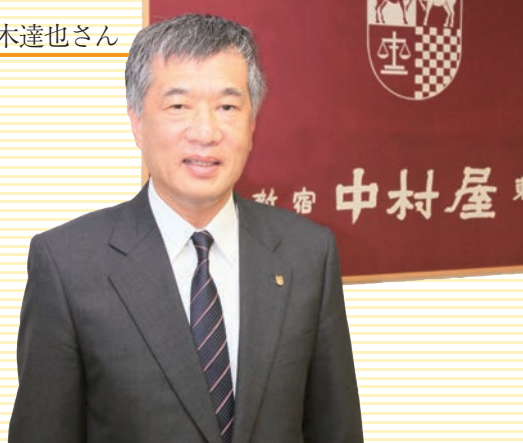


松枯れ材を使って地域の皆さんと一緒にかんだち山でアスレチックランドやベンチ作りに取り組んでいます。
明北小学校 6 年代表の皆さん



Message

安曇野市ふるさと観光大使
株式会社中村屋
代表取締役社長 鈴木達也さん



良好な関係をこれからも大切に

安曇野市は創業者の出身地であり、非常に大切な場所です。山々を含めた絶景や自然の中の空気感が印象深く、毎年訪れています。豊富な資源を大切に、今後一層栄えることを祈念します。安曇野の農産物を使った商品販売やカレーを通じた子どもたちとの交流など、これまで築いたつながりをこれからも大切にします。

父さんが育ったこのまち
僕も好き
常念が見えるこのまち
僕のもの

横浜暮らしを 4 年、でも、ふるさとに戻ってきたよ、大好きな安曇野へ

市になって感動した一つ、アルプス花街道です。もう 10 年参加しているよ。

すごーい「残したい 静けさ 美しさ」って安曇野のパノラマだったんだ。

あなたの笑顔と 緑のにおい何気ない毎日があるこのまちが大好きです。

新しいまちはいいよね
だって僕らでまちの彩を塗っていけるから

豊かな自然環境を将来まで残し、子どもたちが伸び伸びと育つ地域であってほしいです。
「安曇野市最高です！」
浅川八志呂さん
(堀金烏川)



おてんとうさま
北アルプスさま
市制 10 年に成長し、安全、安心ありがとう。
川上康子さん（穂高柏原）

安曇野の人の温かさと季節の移ろい、豊かな自然が大好きです。自然と調和したまちの魅力を生かした創作をしていきたいです。
あづみ野ガラス工房（左から）

三好愛音さん
池内康祐さん
八重樫祐未さん
吉岡百合絵さん
(豊科南穂高)



数年前に子育てで環境の整った安曇野市に東京から来ました。子どもの頃、両親と北アルプスによく登山しましたが、娘が成長したら、一緒に山に登ることが私の夢です。
山崎裕美子さん
実千穂ちゃん
(穂高)



知る人ぞ知る安曇野は
山美しく水澄むところ
吉川ミサ子さん
(三郷明盛)

病しい 光失うも
あなたの薫るこのまちで
最期まで生きてみせます

Message

安曇野市ふるさと観光大使
ハーブ奏者 上松美香さん

早春賦、そして安曇野の自然を未来の子どもたちへ♪

アルパを演奏するきっかけは、早春賦祭り。音楽活動の原点です。田が温み土の匂いがする春、緑ざわめき風の香りがする夏、どこからか音楽が聞こえてくる秋、三九郎の冬など、どこにいても、何をしても季節を感じられる安曇野。生きる源でエネルギーを肌で感じます。早春賦、そして安曇野の自然が、未来の子どもたちへ引き継がれてほしいです。



AZUMINO City 10th ANNIVERSARY 大好き！安曇野

祝「安曇野市 5 地域集い 10 周年」
豊かに実り未来へ出発進行
島田貴安さん（豊科南穂高）

創ろうよ ぼくたちのまちを
こころひとつに 未来のために

熱く燃えたあの日から 前進も後退も個々の活動からと信じて進む。
中横富美恵さん（豊科高家）

頂にひろがる夢
好きです
そよ風の安曇野市
加々美 弘さん(明科中川手)

安曇野は山と緑多い
田園風景に豊かな清流で心安らぐところ
です。
沓掛 清さん
(穂高有明)

心一つに結ばれた
田園都市
農工商を 盛り上げて
共に進もう 安曇野市
小倉信明さん
(豊科田沢)



質実剛健で、市民に喜ばれ、次世代へ引き継がれる市庁舎。

1階行政情報コーナー・くつろぎコーナー

4階パノラマラウンジ・眺望デッキ（無料開放スペース）

●利用時間 平日午前9時～午後6時（休日は午後9時まで）

窓口時間延長時は、午後8時まで

※年末年始（12月29日～1月3日）、臨時休館日を除く

編集・発行 安曇野市 政策部 秘書広報課



〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

TEL 0263-71-2000 Fax 0263-71-5000

平成27年10月発行